

# CSR 2019

Corporate Social Responsibility Report



# 会社の成長は社員一人ひとりの成長から 前田製作所は社員の成長を強力にバックアップします。

今日の経済、社会など、会社を取巻く環境は今まで以上に急激な変化を遂げております。

IoTをはじめとする技術革新、働き方改革、SDGsへの取組み、さまざまな動きに対し迅速に、且つ最適な対応をすることが求められております。

そんな中で今、当社に必要なこと、  
それは社員一人ひとりの成長です。

会社は社員の成長を促すために、いろいろな場面でサポートします。

例えば、

社員が安全に、また健康的に働くことができる職場作りを目指します。

成長が促進できる社員同士のコミュニケーションづくりに注力します。

あらゆる場面で社員の技術力向上の機会を捉えます。

社員は自らの能力向上を実感することで、更に働き甲斐を感じる事ができます。

そして更に高い目標に向かう意識が芽生えます。

一人ひとりの成長が集結することにより、今日の急激な環境変化への対応が可能となり、会社は持続的に成長を遂げます。

前田製作所は、それがすべてのステークホルダーの皆さまの更なる信頼と満足の獲得に繋がると考え、日々の活動を続けてまいります。

## Company Profile

会社名	株式会社前田製作所 MAEDA SEISAKUSHO CO.,LTD.
本社	長野県長野市篠ノ井御幣川1095番地
電話	026-292-2222(代)
設立	1962年11月
資本金	31億6千万円
代表者	代表取締役社長 塩入 正章
従業員数	552名
関連会社	株式会社ネオックス 株式会社マエダオールサポート 株式会社サンネットワークマエダ

### 主な事業内容

#### 建設機械事業

★建設機械販売・整備・レンタル

サービス事業エリア

コマツ甲信（長野県、山梨県全域）

コマツ名古屋（愛知県岡崎市以西・三重県鈴鹿市以北）

#### 産業・鉄構機械等事業

★以下の製品の製造、販売及び付帯サービス（サービス部品の供給）

移動式クレーン（かに・フローラクレーン）、室内高所作業車、自走式  
篩機、運搬台車、定置式凍結防止剤散布装置、凍結防止剤散布車、草  
刈車、シールド掘進機、アーティキュレートダンプトラック

★油圧ショベル（マイクロショベル）の製造

★橋梁の製造及び据付け

★水門及び周辺機器の製造、販売及び据付け

#### 技術・開発事業

★自社製品の開発・モデルチェンジ

★電気・電子制御の設計

★合金微粉末製造

★新製品・サービス創出活動

### 編集方針

・本報告書は当社のステークホルダーであるお客さま、社員、株主、投資家、お取引先、地域社会等に対し、当社の環境及び社会に対する取り組み状況を開示することを目的として発行いたしました。

・主に参考としたガイドライン

GRIstandard：2016

ISO26000：2010（社会的責任に関する手引き）

環境省「環境報告ガイドライン（2012年版）」

環境省「環境会計ガイドライン（2005年版）」



▲上記写真は、マエダクレーン1号機です。  
 海外の小型トラック搭載クレーンを参考として、小型クレーン開発にチャレンジし当時最新技術であった「ハーモニックドライブ減速機」をウィンチに採用しました。

コーポレートメッセージ ..... 1

マエダのCSR ..... 2

トップメッセージ ..... 3

特集1  
**前中期3ヵ年経営計画の総括と  
 新中期3ヵ年経営計画**

建設機械本部 ..... 5

産業機械本部 ..... 7

技術本部 ..... 9

経営管理本部 ..... 11

関連会社 ..... 13

特集2  
**マエダクレーン誕生50周年** ..... 15

**2018年度のトピックス** ..... 19

**マエダの環境経営** ..... 21

**品質向上に向けた取組み** ..... 29

**コーポレートガバナンス** ..... 38

有識者意見/有識者意見を受けて ..... 43

マエダのCSR

マエダのCSR3分野	CSR重要テーマ	重点活動	関連頁
環境	環境への配慮	温暖化対策と循環型社会の構築	19 21-27・29
	国際ルールの遵守	国際ルールを踏まえた行動	21-22 27・42
	社会貢献活動	自発的な社会参加、災害復興支援	28
	コミュニケーションと情報開示	ステークホルダーとの双方向対話	22 28
品質	お客さまの満足	お客さまニーズの把握と信頼の獲得、個人情報・顧客情報の保護	17-18 29-34・42
	製品安全と品質・技術の追求	現状に満足することなく、あくなき追求	17-18 29-37
	公正な競争	独禁法の遵守、公正・適正な購買取引、政治・行政との適正な関係	42
	国際ルールの遵守	現地の文化・習慣の尊重	42
コーポレートガバナンス	企業倫理の徹底	コーポレートガバナンス・コンプライアンス	41-42
	社会の秩序と安全の重視	反社会的勢力との対決	42
	安全で快適な職場の創出	安全で快適な職場環境、人材育成	19-20 31-32 36・38-40
	コミュニケーションと情報開示	ステークホルダーとの双方向対話	5-14・32 34・41-42

# Top Message

トップメッセージ



代表取締役社長

**塩入 正章**

# 成長の実現

## この3年間の歩み

今日の私たちを取巻くビジネス環境は急激に変化しております。

特にここ数年来AI、IoTをはじめとする技術革新は過去に経験したことのないほどの急進化を遂げており、今後ますます加速度を増すと思われます。

また、労働環境も“働き方改革”として、直ちに成果を出さなければならない状況にあります。

こうした環境の中、前田製作所は2016年度を初年度とする中期3ヵ年経営計画において、「成長へのテイクオフ」をスローガンに掲げ、外部の環境変化に耐えうる真に強い経営基盤を、スピード感と行動力を持って確立し、持続的な成長を軌道に乗せるべく、次の4つの戦略に基づいて活動してまいりました。

1. 「コアビジネスの強化」として、外部環境に左右されない強固な基幹部門の体質強化
2. 「ビジネス領域の拡大」として、急激に進歩を遂げる技術をいち早く取り入れ、基幹部門や新規事業を拡大
3. 「人財開発活動の強化」として、社員一人ひとりのスキルを高め、会社全体の生産性をアップ
4. 「安全・健康・コンプライアンス」として、社員の安全と健康を確保、しいては働き方改革への積極的な対応、コンプライアンス重視経営による社会的価値の向上

その結果、各年度とも当初の目標値を達成することができ、会社全体をみても成長に向けテイクオフできたと考えております。

## これからの3年間の狙い

今年度を初年度とする中期3ヵ年経営計画では「成長の実現」をスローガンに、正にテイクオフした前田製作

所が、社会の激しい環境変化に柔軟に対応できる企業力を確立し、長期的にまた持続的に成長を実現すべく、企業活動を進めてまいります。

経営戦略としては、前中期経営計画を基本的に踏襲しつつも、企業価値を最大限に拡大するためにイノベーションの推進を第一としました。つまり、

1. 「イノベーションの推進による成長と利益の確保」により、基幹事業の拡大、新たな領域への進出、業務の更なる効率化を目指します。
2. 「人財育成と技術の向上」として、引続き社員一人ひとりの持てる能力を最大限に引出すことを目指します。
3. 「安全・健康・コンプライアンス」として、社員の働き甲斐、働きやすさを追求し、また社会的に優秀と認められる経営を目指します。

## 前田製作所の指標

当社は会社設立時よりコマツ建設機械の取扱いをおこない半世紀以上の歴史があります。クレーンも1968年に第1号クレーンを開発、販売してから2018年で50周年を迎えることができました。その間、さまざまな場所でさまざまな皆さまにご利用いただき、その間の長いキャリアが前田製作所の高い生産技術、メンテナンス技術を培ってきました。

私たちは先人が築き上げてきた技術をいかし、また新たなチャレンジに挑みつつ、長期的に更に発展する会社を目指し日々努力を重ねます。

そして、すべてのステークホルダーの皆さまの満足度を向上させたいと考えております。

## 建設機械本部



取締役執行役員副社長  
建設機械本部長 一木 雅彦



価値あるご提案を  
あなたに

### 建設機械事業

建設機械販売・整備・レンタル

サービス事業エリア

- ・コマツ甲信（長野県、山梨県全域）
- ・コマツ名古屋（愛知県岡崎市以西・三重県鈴鹿市以北）



## 中期3ヵ年経営計画(2016年～2018年)の成果と取組み課題

建設機械本部の中期3ヵ年経営計画重点戦略として、第一項目のブランドマネジメント活動とは「お客さまが求めているハード(機械)の迅速な提供やその稼働維持に留まらず、お客さまが目指している理想や使命に対し、いかにお役に立てるかが私たちの役割」とし、顧客視点を基本的な行動理念とした活動です。この実現のため当社の持つ経営資源や能力をお客さまに提供し続けてまいりました。第二項目のIoT活用によるサービス収益の拡大とは「コマツ建設機械に装着されている通信機器KOMTRAX(コムト

ラックス)が発信する機械の稼働情報により、お客さまと情報を共有化し、機械が絶えずベストな状態で稼働できるメンテナンスを提供する」ことでお客さまのお役に立てると同時に、アフターサービス業務の効率化を進めてまいりました。第三項目の選択と集中によるレンタル事業の拡大とは「さまざまな用途で使用される建設機械において、品ぞろえを行い、また高稼働のお客さまに対しては安心して使っていただける体制整備」により事業の拡大を図ってまいりました。

中期経営計画(2016年～2018年) 重点施策の展開/重点取組み事項	CSR 3分野	CSR重要テーマ	重点活動	評価	成果と取組み課題
ブランドマネジメント思考に基づく営業戦略強化	品質	お客さまの満足	お客さまニーズの把握と信頼の獲得	◎	お客さまと視点を合わせた活動を実施しました。
IoT活用によるサービス収益力の拡大	品質 環境	お客さまの満足 環境への配慮	お客さまの信頼獲得 温暖化対策と循環型社会の構築	◎	コマツ建設機械に装着されているKOMTRAXを活用しお客さまに安心していただける活動を実施しました。
選択と集中によるレンタル事業の拡大	品質 環境	お客さまの満足 環境への配慮	お客さまの信頼獲得 温暖化対策と循環型社会の構築	◎	さまざまな使われ方に対応する品ぞろえと体制を整え、お客さまニーズに応える活動を実施しました。

※評価は中期3ヵ年経営計画に対する達成度

## 新中期3ヵ年経営計画(2019年～2021年)について

少子化や人材不足という社会の流れがあります。新中期3ヵ年経営計画の第一項目として「ITソリューション活動による受注の拡大」に取組みます。KOMTRAXの活用に加え、実際にマシンの状態を最新のITデバイスを活用しお客さまへの情報提供を行うことで、当社への信頼をより高めていただく活動を進め、ストック台数の確保及びこのメンテナンス受注拡大を進めます。第二項目として「コンサル営業によるレンタル事業の拡大」に取組みます。建設技能

労働者は熟練労働者の引退で、人材の逼迫が予測されます。この問題は建設業のみに留まらずインフラ整備への影響、災害時などの初動の遅れなど今後の大きな問題となることは明白です。この問題に当社として真剣に取組み、国土交通省が進める施工現場の情報化i-Constructionを推進いたします。また、リニア新幹線工事に貢献できるよう体制をさらに整えてまいります。

新中期経営計画(2019年～2021年) 重点施策の展開/重点取組み事項	CSR 3分野	CSR重要テーマ	重点活動
ITソリューション活動による受注の拡大	品質	お客さまの満足	KOMTRAXの活用に加え、マシンタッチアプリにより常に機械のベストコンディションの維持を図り、止めない現場を実現する。
コンサル営業によるレンタル事業の拡大	環境	環境への配慮	お客さまの施工現場の効率化を提案し、スマートコンストラクション等により省人化、短納期化を推進する。

# 産業機械本部



取締役常務執行役員  
産業機械本部長 羽場崎 富章



## 産業・鉄構機械等事業

以下の製品の製造、販売及び付帯サービス  
(サービス部品の供給)

移動式クレーン (かに・クローラクレーン)、  
室内高所作業車、自走式篩機、運搬台車、  
定置式凍結防止剤散布装置、  
凍結防止剤散布車、草刈車、シールド掘進機、  
アーティキュレートダンプトラック

油圧ショベル (マイクロショベル) の製造

橋梁の製造及び据付け

水門及び周辺機器の製造、販売及び据付け



## 中期3ヵ年経営計画(2016年～2018年)の成果と取組み課題

2018年はマエダクレーン発売50周年を記念する年でした。50周年記念行事として製品の部品や材料を供給していただいている協力業者さまや国内、海外で製品の販売や修理を担っていただいている販売店さまとのミーティングを催しました。貴重なご意見、ご要望を頂戴し、新たな50年への一歩を踏み出すことができました。また、中期3ヵ

年経営計画では外部の環境変化に耐えうる真に強い経営基盤を確立するため、「コアビジネスの強化」については、国内戦略として工場設備および特装車両分野の強化、海外戦略としては戦略製品の販売強化を行いました。「ものづくり道場」を開設し、既存技術力の伝承と育成の活動を強化し「技術のマエダ」の力を磨いてまいりました。

中期経営計画(2016年～2018年) 重点施策の展開/重点取組み事項	CSR 3分野	CSR重要テーマ	重点活動	評価	成果と取組み課題
コアビジネスの強化 生産性改善による収益と品質の向上	品質	お客さまの満足	電子情報活用によるサービス活動強化	○	電子カルテ、PittQube導入による業務の効率化
コアビジネスの強化 生産性改善による収益と品質の向上	品質	お客さまの満足	再発防止対策強化による製品品質向上	○	ヒューマンエラー撲滅 コンタミ起因不具合撲滅
ビジネス領域の拡大 戦略的投資による事業拡大	環境	お客さまの満足 環境への配慮	特装車両、工場設備への注力による安定受注拡大	○	排ガス規制対応の新型特装車両の開発・販売

※評価は中期3ヵ年経営計画に対する達成度

## 新中期3ヵ年経営計画(2019年～2021年)について

「新生産・新エリア・新分野挑戦」をスローガンに繰返生産品と個別受注品の製造部門および営業部門をそれぞれ製造統括部、営業統括部として統合し、ニッチ分野での存在感を強くし、環境変化に対応し成長できる本部を目指します。国内市場では工事が本格化する東京外環、リニア中央新幹線関連など大型プロジェクトの需要を取込み、海外市場では「製品事業への積極的投資」による戦略製品投入と販売ネットワーク拡大により収益基盤を強化してまいりま

す。事業の拡大と安定のため、「ニッチ分野開拓」として既存クレーン製品以外の商製品への取組みを強化し、アフターマーケット事業を「新たな価値の創造」と位置付けお客さまから頼られる存在を目指します。「イノベーションの推進による成長と利益の確保」では生産改革を進め、工場稼働率向上を図るとともに在庫リスク低減活動を展開します。「人材育成と技術の向上」では、ものづくり道場の実践的教育展開により生産技量向上を図ります。

新中期経営計画(2019年～2021年) 重点施策の展開/重点取組み事項	CSR 3分野	CSR重要テーマ	重点活動
製品事業への積極投資 ◆海外地域別戦略推進	環境	環境への配慮	海外ニーズ取込と販路開拓
イノベーションの推進による成長と利益の確保 ◆自社商製品取組総合力によるニッチ分野開拓	環境	環境への配慮	MC/CC以外商製品成長による事業安定
新たな価値の創造 ◆アフターマーケット事業による利益拡大	環境	環境への配慮	サービス関連業務の強化
すべての業務の効率化 ◆生産改革による工場稼働向上と在庫リスク低減	環境	環境への配慮	繰返生産と個別生産の協調

# 技術本部



取締役常務執行役員  
技術本部長 伊藤 正義



## 技術・開発事業

自社製品の開発・モデルチェンジ

電気・電子制御の設計

合金微粉末製造

新製品・サービス創出活動

## 中期3ヵ年経営計画(2016年～2018年)の成果と取組み課題

中期3ヵ年経営計画では、外部の環境変化に耐えうる真に強い経営基盤を確立するため、「コアビジネスの強化」と「ビジネス領域の拡大」を重点戦略として活動してきました。「コアビジネスの強化」としては、かにクレーン等に搭載されるモーメントリミッタ(過負荷防止装置)の内製化を進め、使い易さを追求した操作画面に改良し、より安心・安全な機械としてご提供できるようになりました。また、IoT技術の習得を進め、まきえもん(定置式凍結防止剤散布装置)

の遠隔監視システムを2018年度より市場投入いたしました。山間地に出向くことなく、遠隔操作で凍結防止剤の散布が可能となり環境負荷低減も実現することができました。「ビジネス領域の拡大」では、合金微粉末製造事業を推進し粉末製造技術を習得することができました。当社粉末の高温耐用の特長をいかし、高度情報化社会を担う次世代半導体の普及に向けて、社会ニーズ実現のお役に立ちたいと考えています。

中期経営計画(2016年～2018年) 重点施策の展開/重点取組み事項	CSR 3分野	CSR重要テーマ	重点活動	評価	成果と取組み課題
コアビジネスの強化【優位製品創出】	品質	製品安全と品質・技術の追究	過負荷防止装置の内製化	◎	使い易い画面による、人にやさしいクレーンを提供
コアビジネスの強化【優位製品創出】	環境	環境への配慮	IoT技術活用	◎	まきえもん遠隔制御市場導入
ビジネス領域の拡大【合金微粉末製造事業】	環境	環境への配慮	合金微粉末製造技術確立	○	要求材質の粉末製造技術を確立

※評価は中期3ヵ年経営計画に対する達成度

## 新中期3ヵ年経営計画(2019年～2021年)について

新たな中期3ヵ年経営計画では、社会の激しい環境変化に柔軟に対応できる企業力を確立し、長期的・持続的な成長実現に向け「成長の実現」をスローガンに掲げ中期経営目標の達成を目指します。重点戦略である「イノベーションの推進による成長と利益の確保」では、まず新たな組織として技術本部(技術部・開発部)が新設されました。これまで、産業機械本部と新規事業部に別々に組織されていたエンジニアを技術本部として集約し、「技術のマエダ」実現

のため本部横断的な技術開発や開発の効率化を進めていきます。自社製品の開発を担う技術部では、社会の激しい環境変化にスピードをもって対応するため開発工程を見直し、製品開発期間の短縮を推進します。また、新たな価値創造を目的とした開発部ではコア技術拡充のため先行研究を推進するとともに、習得した合金微粉末製造技術を更にレベルアップし、生産性向上と原価低減を進め競争力の強化を図ります。

新中期経営計画(2019年～2021年) 重点施策の展開/重点取組み事項	CSR 3分野	CSR重要テーマ	重点活動
すべての事業の効率化【開発効率化推進】	環境	環境への配慮	開発業務効率化による製品開発期間の短縮
新たな価値の創造【合金微粉末事業の推進】	環境	環境への配慮	合金微粉末製造事業における生産性向上
新たな価値の創造【デジタル技術活用】	品質	製品安全と品質・技術の追究	オープンイノベーションによる先行研究の推進

# 経営管理本部



取締役専務執行役員  
経営管理本部長 加藤 保雄

## 中期3カ年経営計画(2016年～2018年)の成果と取組み課題

事業を運営していく過程では、数々のリスクが待ち受けております。経営管理本部は企業価値の向上を追求しながら、これらリスクをいち早く察知し対処することで、安定した経営体制を維持していく役割を担っております。2016年度からの3カ年、経営管理本部ではブランドイメージの向上・業務の効率化による経営基盤の更なる強化に取

組むとともに、社員のモチベーションアップ・能率の向上を目指して人事評価制度の確立や財務会計知識の全社的スキルアップ・個人の資格取得推進に取組み企業力の向上に努めてまいりました。また、事業を運営していく上で欠かせない社員一人ひとりについての安全・健康の確保にも取り組んでまいりました。

中期経営計画(2016年～2018年)重点施策の展開/重点取組み事項	CSR 3分野	CSR重要テーマ	重点活動	評価	成果と取組み課題
経営基盤の更なる強化	コーポレートガバナンス	コミュニケーションと情報開示	ステークホルダーとの双方向対話	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・CSRランキングアップのサポート活動</li> <li>・次期中期経営計画策定</li> <li>・企業価値/ブランドイメージの向上</li> <li>・IT化による業務効率化</li> <li>・財務関係業務改善の推進</li> </ul>
社員の能力発揮の仕組み作り	コーポレートガバナンス	安全で快適な職場の創出	安全で快適な職場環境、人材育成	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新人事評価制度の確立</li> <li>・採用活動の強化</li> <li>・財務会計知識の全社スキルアップ</li> <li>・個人の資格取得推進</li> </ul>
健康経営の推進	コーポレートガバナンス	安全で快適な職場の創出	安全で快適な職場環境、人材育成	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リスクの未然防止に資する監査/教育の実施</li> <li>・社員一人ひとりの健康管理</li> </ul>

※評価は中期3カ年経営計画に対する達成度

## 新中期3カ年経営計画(2019年～2021年)について

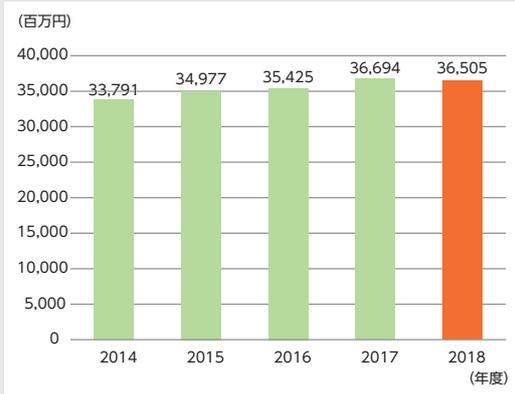
経営管理本部では、① ESG強化による企業価値向上、② 人事制度改革による技術力・企業力向上を重点取組事項に掲げ活動します。ESG強化では、積極投資による業務の効率化を行い長期的成長の実現を目指します。また、さまざまな想定のもとBCP訓練を繰り返し実施し突然の緊急事態に備えるとともに、ステークホルダーとのコミュニケー

ションを通して信頼され続ける企業を目指し、企業価値の向上を図ります。人事制度改革では、新人事評価制度の運用、ダイバーシティの推進により社員が能力を最大限に発揮できる職場環境の創出に取り組めます。前中期経営計画同様、事業を運営していく上で欠かせない社員一人ひとりの安全・健康の確保にも引き続き取り組んでまいります。

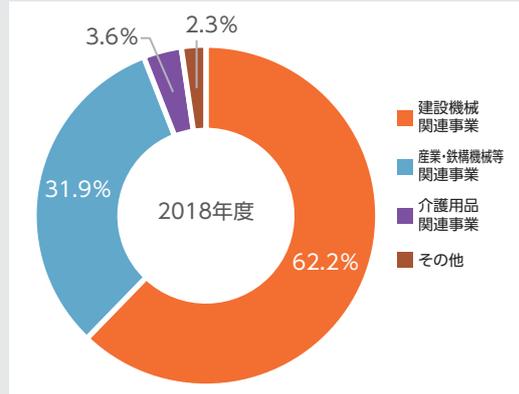
新中期経営計画(2019年～2021年)重点施策の展開/重点取組み事項	CSR 3分野	CSR重要テーマ	重点活動
ESG強化による企業価値向上	コーポレートガバナンス	安全で快適な職場の創出 コミュニケーションと情報開示	安全で快適な職場環境、人材育成 ステークホルダーとの双方向対話
人事制度改革による技術力/企業力向上	コーポレートガバナンス	安全で快適な職場の創出	安全で快適な職場環境、人材育成

# 財務ハイライト

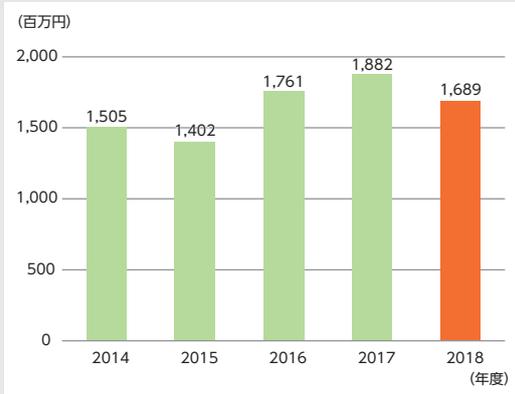
## 売上高



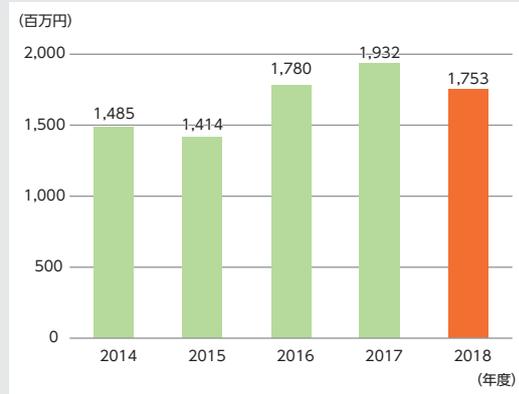
## セグメント別売上構成



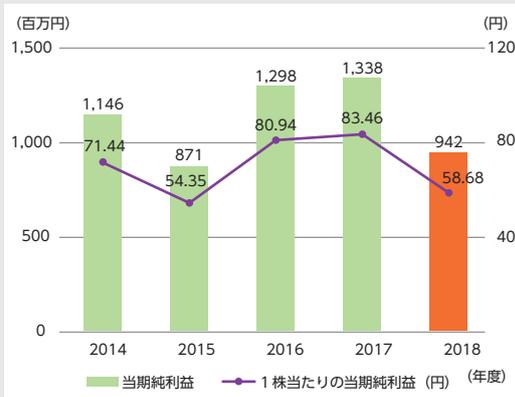
## 営業利益



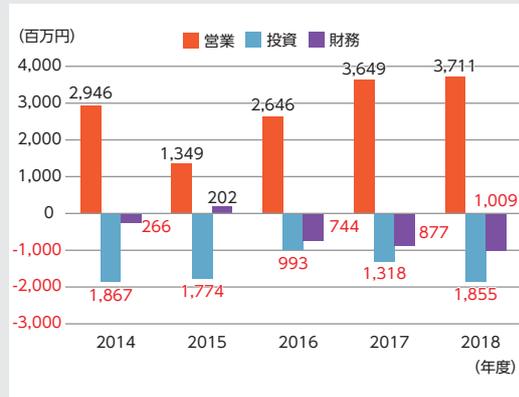
## 経常利益



## 当期純利益/1株当たりの当期純利益



## キャッシュフロー推移



# 関連会社

前田製作所の関連会社は下記の3社があります。

## 株式会社ネオックス

本社工場 新潟県中魚沼郡津南町上郷子種新田150  
電話 0257-66-2526

## 株式会社サンネットワークマエダ

長野県長野市篠ノ井御幣川11095  
電話 026-480-0222  
営業所 長野県下 5拠点 山梨県下 1拠点  
愛知県下 2拠点 三重県下 2拠点

## 株式会社マエダオールサポート

本社事務所 長野県長野市篠ノ井御幣川11084-1  
電話 026-299-3380

■ 関連会社 営業拠点図



## 株式会社ネオックス

日本ジオパーク認定登録の苗場山麓にて、日本有数の河岸段丘と豪雪・魚沼コシヒカリで有名な津南町から全国へ向け油圧シリンダの設計・製造・販売をおこなっております。

### 今までの活動の成果と取組み

1991年の創業以来「品質至上」を基本理念とし、産業機械・建設機械で使用する多様な油圧シリンダを全国各地のお客さまに供給させていただいております。地元企業として地域の環境保全・活性化への協力を積極的におこなってまいりました。

中期経営計画 (2016年～2018年) 重点施策の展開／重点取組み事項	CSR 3分野	CSR重要テーマ	重点活動	評価	成果と取組み課題
既存設備の有効利用と生産性を考慮した生産計画立案による生産能力の向上	環境	環境への配慮	環境負荷物質の低減	○	有害排水のリサイクル化
	品質	お客さまの満足	納期対応による信頼の獲得	○	短納期・小ロットへの対応

### 今後の会社方針について

環境保全はもとより、働き方改革を模索しより良い会社経営を実現し過疎地域にも若者が集まる安心して働ける職場を目指してまいります。お客さまにおいては、ニーズにあったより良い製品を提供し、パートナーとして協力することにより社会に貢献してまいります。

新中期経営計画 (2019年～2021年) 重点施策の展開／重点取組み事項	CSR 3分野	CSR重要テーマ	重点活動
地域に誇れる企業づくり	品質	お客さまの満足	小ロット生産に対応し付加価値のある製品を供給する
	コーポレートガバナンス	安全で快適な職場の創出	社員の意見を取入れた独自の「働き方改革」の構築

## 株式会社サンネットワークマエダ

高齢化社会における社会貢献ができる事業として、2008年10月に事業を開始いたしました。

「キレイな商品」と「顧客満足度の高いサービス」の継続的な提供を品質方針とし、福祉用具の貸与を通じてご利用者さまの自立支援を第一の目標としております。

### 今までの活動の成果と取組み

ISO9001を認証取得し、福祉用具の消毒に関する品質の向上と継続的な品質保証の仕組みづくりをおこなってきました。また、品質(商品・サービス)の重要性が再認識され、コアビジネスのレンタル売上高の増加への取組みを強化いたしました。

中期経営計画(2016年~2018年) 重点施策の展開/重点取組み事項	CSR 3分野	CSR重要テーマ	重点活動	評価	成果と取組み課題
安全・安心を継続的に提供	品質	お客さまの満足	ISO9001の取得による消毒に関する品質の向上	○	マネジメントシステムの定着

### 今後の会社方針について

介護保険給付対象となる65歳以上の人口は微増で推移しますが、介護予防を重視する観点から「軽度者」への福祉用具レンタル需要は今後も引続き増加すると推測されます。そのような市場環境に対して、地域別の顧客対応により顧客満足度の向上を図ってまいります。  
※「軽度者」は要支援1・2、経過的要介護、要介護1の認定された方

新中期経営計画(2019年~2021年) 重点施策の展開/重点取組み事項	CSR 3分野	CSR重要テーマ	重点活動
お客さまの「信頼」と「満足」の向上	品質	お客さまの満足	当社の強みを明確にした地域別顧客対応により、顧客満足度の向上を図る

## 株式会社マエダオールサポート

創業1983年の損害保険代理店です。会社の資産や企業活動、従業員や家庭生活を守る最適な保険をご提案いたします。

### 今までの活動の成果と取組み

2016年度より損害保険業界の変化に備えた第一ステップとして、グループ企業・従業員に対して長年培った、さまざまなリスクに関する知見をいかし、付加価値の高いサービスを提供し、より高いお客さまの満足を増収に繋げる経営基盤強化活動を開始いたしました。

中期経営計画(2016年~2018年) 重点施策の展開/重点取組み事項	CSR 3分野	CSR重要テーマ	重点活動	評価	成果と取組み課題
安全と信頼をいただける保険事業活動による増収	品質	お客さまの満足	お客さまニーズの把握と信頼の獲得	○	従業員自動車保険契約件数が3年間で34.1%増加、従業員とOB向け団体保険2件を企画販売

### 今後の会社方針について

常に信頼される保険代理店を目指し、トップレベルの資格・知識・対応力を備えたプロスタッフを養成し、更に上質の安心安全サポートをお客さまに提供してまいります。また業務の改善により従業員の時間的負担・メンタル面での負担を軽減し活動を支援してまいります。

新中期経営計画(2019年~2021年) 重点施策の展開/重点取組み事項	CSR 3分野	CSR重要テーマ	重点活動
お客さまに安心と信頼をいただける保険事業活動による増収	品質	お客さまの満足	損害保険代理店としてトップレベルの資格・知識・対応力を備えた人材育成と職場環境整備

## 次世代への挑戦!! ~より高い環境性・安全性・省力化を追求して~

### 50年の歩み

マエダクレーン  
発売当時の稼働



初代トラック搭載  
型クレーン  
「MC100」発売



前田製作所初となる  
かにクレーン  
「CP150」発売



クラス最大能力の油圧式  
かにクレーン「MC254C」発売



前田製作所初となる  
クローラクレーン  
「CC505」発売  
クラス最大作業範囲  
最小後端半径



クラス初油圧駆動  
走行式  
「MC205C」発売

1960 1963 1968 1980 1987 1988 1990 1991 1994 1995

前田建設工業株式会社  
篠ノ井機械工場として開設

コマツとサービス指定工場  
契約締結



### CSR・コンプライアンス の経緯

1962年 前田製作所創立  
1968年 社是「誠実・意欲・技術」制定

株式会社フォードマエダ設立

ビル建設前の本社



1989年 株式の店頭登録  
資本金3,160,000,000円

株式会社ネオックス  
設立

コマツ総販売店契約締結  
新本社ビル落成

レンタルアイチ株式会社設立  
(現レンタル21事業の前身)

ISO9001  
認証取得  
デミング賞実施賞受賞



本社ビル  
落成記念  
展示会

1995年 阪神大震災のボランティア活動  
1998年 長野オリンピックのボランティア活動

### 創業~1970年代

### 1980年代

### 1990年代

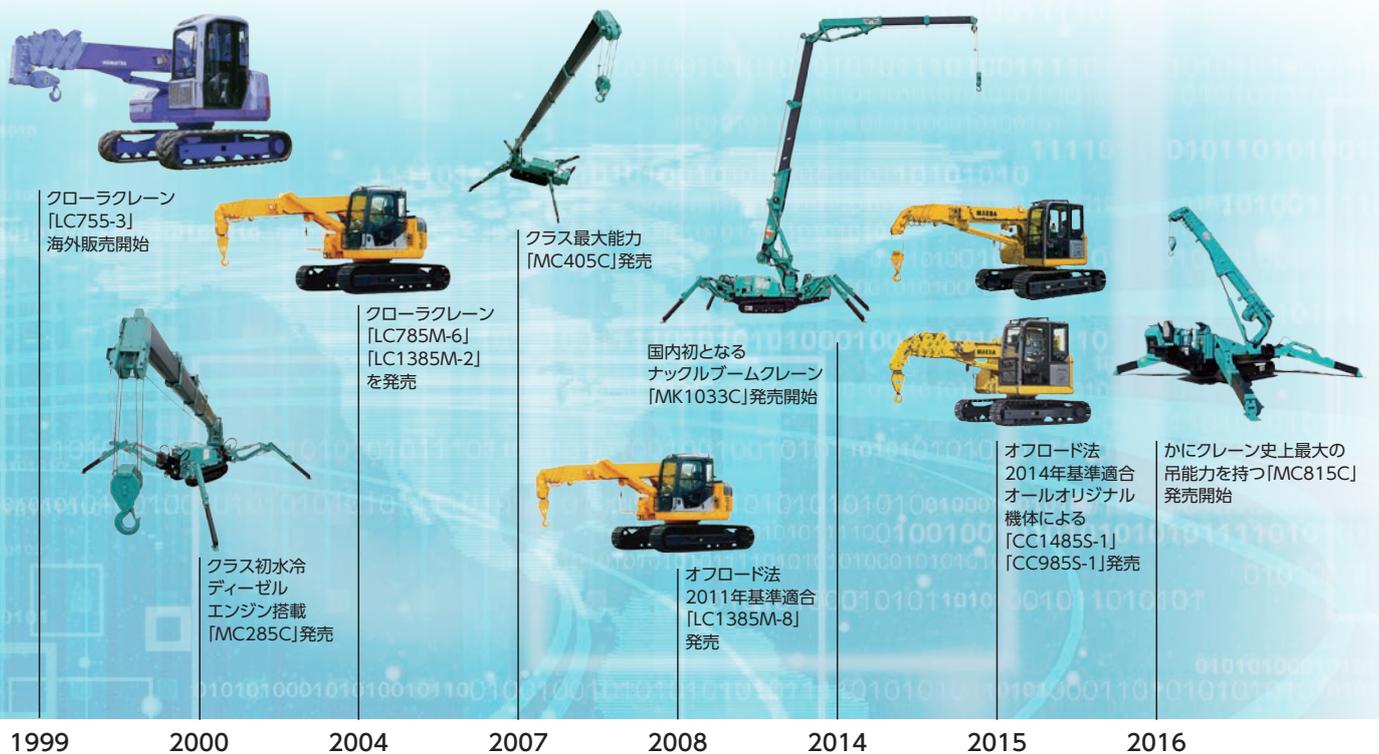
#### 社会背景・出来事・法令

◎1960年代は高度経済成長期  
◎1964年東京オリンピック開催  
◎1968年超高層ビル霞ヶ関ビル完成

◎1980年代後半から1990年代初頭にかけて  
バブル経済期

◎1995年阪神大震災  
◎1998年長野オリンピック開催

1968年9月に初代マエダクレーンのトラック搭載型クレーン「MC100」が発売され、2018年で50周年を迎えました。この50年の間にはバブル崩壊、リーマンショックなど幾度と大きな景気変動がありました。これらの危機を乗り越えてこられたのは、お客さま、お取引先など多くの皆さまに支えていただいたおかげです。発売して50年間の感謝と未来に向かうステップとして、マエダクレーン50周年記念企画を展開いたしました。



特集 2  
マエダクレーン誕生50周年

- 2004年 株式会社ジャスダック証券取引所に株式を上場
- 2005年 企業倫理室設置
- 2005年 マエダ企業行動憲章制定
- 2008年 内部統制導入 JSOX(金融商品取引法)
- 2009年 CSR推進室設置 (企業倫理室と環境安全部との統合)



2011年 「CSR報告書2011」刊行

※以降の「CSR報告書」は、当社Webサイトでご覧いただけます。

## 2000年代

- ◎2000年代より企業コンプライアンスが社会問題となる
- ◎2001年頃から官製談合が問題視される
- ◎2004年新潟県中越地震
- ◎2007年新潟県中越沖地震
- ◎2008年リーマン・ショック

## 2010年～現在

- ◎2011年東日本大震災
- ◎2011年長野県北部地震
- ◎2016年熊本地震
- ◎2018年西日本豪雨

お客様の声



(株)野口研材商会  
野口 昇 相談役



※MC174CW  
シリーズ最小積載2tトラック  
に横積み可能

昭和50年の創業以来、茨城県の石材産地の真壁地区に店舗を構え、石材関連機械を取扱い、石材業界を牽引

マエダさんと付き合い良かったことは、お客さまに自信を持って機械を薦められること。それと、業界初の油圧走行だったので、販売やレンタルするときにも安全面での宣伝効果が高かった。そして、マエダさんの機械を取扱うことで技術力が向上したことが良かった。中でもMC174CW<sup>\*</sup>は特に良く、安全面に関して進歩しているのが分かる。以前他社機を取扱いしていたが、今では、社員みんながマエダのかにクレーンが好きになった。また、古くなったマエダさんの中古車は、整備して販売すると買った人に喜んでもらえるのもうれしい。

今後の市況は良くないことが予想でき、石材業界は縮小傾向に向かっている。世間では墓じまいしてしまうところも多数ある状況。今後は、石材業界以外の業界へも展開して、かにクレーンだけでなくマエダさんのさまざまな商品を取扱っていきたい。



お客様の声



AB Kranlyft  
Jurgen Vater CEO

スウェーデンとイギリスに拠点を置くマエダクレーンの欧州総販売代理店。現在は欧州全域、中東、アフリカ、ロシアを担当

私達(AB Kranlyft)はマエダ(前田製作所)の開発したクレーンを長きにわたり取り扱うことができ、大変嬉しく思っております。

1990年代初めにマエダのクレーンを拝見した当初は、まだヨーロッパの我々の市場に適した製品ではありませんでした。しかし、優秀かつ迅速なマエダのマネジメントのおかげで我々の市場に適したクレーンをすぐに開発していただき、今では我々は共に成長し、ヨーロッパのマーケットリーダーとなるに至りました。

現在マエダは、この成長し続ける業界で世界規模のブランディングに必要となる革新的な製品を生み出す能力、そしてそれを支えるコアとなる価値を大切に、真摯な姿勢で開発に取り組んでいます。私達はマエダのパートナーであることを大変誇りに思います。そしてこれからの50年も共に歩んでまいりたいと考えております。



▲CC423クローラクレーン (BAUMA展示会)



OB 倉石氏

羽場崎取締役

マエダクレーンの設計に携わり歴史を良く知る元開発部長・品質保証部長：倉石俊夫氏と開発部門責任者：羽場崎取締役、新旧の開発部門責任者が、『マエダクレーン50年の進化』について語りました。

### 50周年を迎えて

倉石氏：マエダのトラック搭載型クレーン「MC100」が、1968年9月に発売され、50年が経過しました。今では、かにクレーン・クローラクレーン・キャブバッククレーンと機種も増え、機能・安全性・コスト等どれも格段に進歩しています。

### 油圧式クレーンの開発

倉石氏：私が当社に入社したのは1972年(S47年)3月でした。その頃はバッテリー式、リモコン(有線式)のMC100・150のクレーンが発売されていました。私が入社してまもなく油圧式クレーンのMC200の開発が始まりました。

その頃は油圧の知識も経験も無く、一からの手探りの状態でした。その当時のクレーンはレバー操作式が主流で機能もシンプルなものでした。当社は、MC100・150がバッテリー式、リモコン(有線式)でしたので、油圧式クレーンのMC200もリモコン(有線式)で開発が進められました。

当初は、ON-OFF制御の電磁弁を積み重ねて使用しました。クレーンの細かな作動、停止はできませんでしたが、アクセルレバーをモーターで制御することにより、エンジンの増減でクレーンの速度を制御し、クレーンの作業が可能となりました。リモコン(有線式)は一人作業・荷物近くでの作業ができ好評でした。

羽場崎：現在はレバー操作とほぼ同じ作動ができる油圧コントロールバルブが開発され、よりスムーズな作動ができ、現在に至っています。

ブーム伸縮装置の油圧シリンダー、落下防止・スピードを制御するカウンターバランスバルブ、伸縮の順次作動を制御するメカニカルチェックバルブ・シーケンスバルブも一から開発しています。

協会社との共同により開発したもので、機能テスト、耐久テスト等膨大な試験を行い、採用しています。特にカウンターバランスバルブについては、荷重の変動、高温作業、低温作業等の影響が大きく「ハンチング」という、

動いたり止まったりした動作が発生し、スムーズに作動しませんでした。それでも、他社製品の調査、アイデアの抽出、試行錯誤を繰り返して問題を解決しました。

### リモコン(有線式)からラジコン(無線式)の開発

倉石氏：リモコン(有線式)は太い配線があり、配線のねじれの発生、切断等使いにくいとの意見があり、ラジコン(無線式)の開発が進められました。当初はラジコンの経験、ノウハウもなくラジコンメーカーに依頼するのですが、なかなか採用できるどころもなかったです。

また、クレーン用のラジコン装置もなく、ラジコン飛行機で使用されている送信機をモデルに、当社にて専用のラジコン装置を開発しました。機械的なところは当社が設計し、中身のプリント基板ラジコンのモジュール等の配置はラジコンメーカーで設計しました。機能試験、耐久試験、高温試験、低温試験、作業範囲内の到達試験等クリアしました。型代が高額でしたが、良くできたと思います。

羽場崎：現在は安全性がより増した仕様にて採用されています。

### 最初に携わったクレーン

倉石氏：トラック搭載型クレーンMC200でした。

当時のクレーンはバッテリー式でしたが、現在の油圧式を確立させたパイオニア機種を設計しました。

羽場崎：かにクレーンCP150でした。

現在の主力製品となっているかにクレーンのパイオニア機種を設計しました。



MC200



CP150

羽場崎：倉石さんが設計した制御系部品は、現在のマエダクレーンでも使用されている程、設計力と完成度が高かったですね。

倉石氏：一から設計し、機能テスト、耐久テスト等膨大な試験を行いましたと思うような成果が得られず、中でも低温作業の確認で冬に標高2,000mを超えた高地で一晩明かしたこともありました。その後も試行錯誤を繰り返し、完成した時のことは忘れられません。

### 今後について

倉石氏：今後は安全性、操作性の向上も含め、最先端技術(AI・GPS利用・故障予防)の開発も進めていただきますようお願いしています。

# 2018年度のトピックス

## 名古屋工場の新設

新整備工場を建設するにあたり、「名古屋支店の重要拠点工場としての役割、建設機械等の車検整備が可能であること、社員がストレス少なく作業をできること」を検討いたしました。

完成した工場は、スパンが広くなるとともに整備工場の天井が高くなり、それと同時にシャッターも高くすることで、大型機械の搬入出が便利になりました。出入口上方部に庇(ひさし)を設けたことにより、雨水の浸入を防ぐとともに、簡易作業は軒下でも対応可能となりました。出入り口地面部には敷鉄板を敷き詰めることにより、溶接・溶断作業が可能となったほか、さまざまな利便性が向上しました。

重量物を置くことを想定し2機のホイストクレーン(4.9 t、4.9×10 t)を設置したことにより、安全性と作業性の効率が上がり、新車の組み立てや中型機のカウンタウェイトの脱着も容易に行えるようになりました。

環境面では、工場から油水分離槽へ向けて排水路を設け、敷地内から油分が敷地外へ流出する環境事故が起こらないようにいたしました。

また、プッシュプル型の換気システムを導入した塗装工場も完備し、塗料ミスト等の飛散防止、社員の化学物質暴露リスクの低減を図りました。

その他、場内には休憩所も完備され、ここにも熱交換式の換気システムが導入されています。更衣室にはシャワー設備も完備し、汚れを落として帰宅ができるようになりました。レイアウトを考慮した男性トイレは入口扉を設けず、清掃作業も軽減しております。また女性トイレとして使用している多目的トイレは、オストメイトやおむつ交換台まで完備した充実したものとなりました。



▲新工場全景



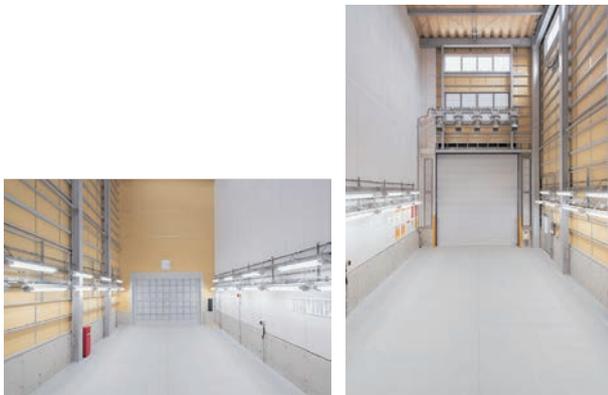
▲工場屋内



▲多目的トイレ



▲シャワールーム



▲プッシュプル塗装場

### 担当者メッセージ



愛知営業所  
山口 喜和

入社と同時に新整備工場の建設がはじまり、新工場が完成すると1年間仕事をしてきた工場が取り壊されました。新工場は広々としたスパンと高い天井で大型の油圧ショベル等を入場させるのも非常に楽になりました。

今後は、この新しく大きな新工場ですぐ仕事を覚えて一人でどのような整備もこなせるメカニックになれるよう頑張っていきます。

## 「お客さま感謝フェアinあいち」開催

新しく生まれ変わった、新整備工場のお披露目と、日頃のご愛顧に感謝して、3月9・10日に『お客さま感謝フェアinあいち』を開催いたしました。

2日目は雨に降られてしまうハプニングもありましたが、両日で1,200名にのぼるお客さまにご来場していただき、大盛況のうちに終えることができました。

展示会では、最新鋭の設備を備えた工場をご覧いただき、お客さまにとってより一層信頼できるビジネスパートナーとして再認知していただけたものと思っております。

現在、土木・建設業界で注目を浴びているi-Constructionの体験コーナーでは、今後新しい建設現場を目指すお客さまに大好評であり、ハード面はもちろん、ソフト面まで、さまざまな質問が飛び交いました。

お子さまには、日頃間近で見ることができない建設機械に触れていただける機会をつくり、ミニショベルでのボールすくいゲーム、高所作業車を使った空中散歩などを体験していただきました。

また、展示会で恒例となっているビンゴゲームなど、ご家族連れのお客さまにも大変喜んでいただきました。



▲屋外機械展示風景



▲多くのお客さまがご来場

### 新工場竣工にあたって

1964年、愛知県愛知郡東郷町にて事業を開始いたしました名古屋支店(当時:愛知支店)。

約半世紀にわたりお客さまの建設機械の保守メンテナンスをお受けしてまいりました整備工場を、この度建て替え2019年2月、最新鋭の設備を有した新工場に生まれ変わりました。

新工場は全部で7スパンの整備場となっております。その特徴は、大型機械を分解せずそのまま工場内に入出りできるよう天井を高くし、工場内で修理箇所の動作確認も可能になったことです。

また、最新の換気システムを導入した塗装ブース、LED照明を四方八方から照らすことで影がなく手元が見やすい灯りの設置、出入口上部の大きな庇は雨水の浸入を防ぐとともに些細な作業ならば軒下作業を可能とし、暑い名古屋の熱中症対策にもなるものと期待しております。

シャワー室を備えた更衣室と休憩室も完備し、第一にサービス員の作業環境と安全を考慮した工場となりました。

名古屋圏は2027年のリニア新幹線開業をはじめ、多くのプロジェクト工事が控えており、建設機械の需要は高まるものと思っております。

私ども名古屋支店一同は、お客さまの現場で活躍する建設機械の安全安心を今後もご提供してまいります。



名古屋支店長  
石田 正巳

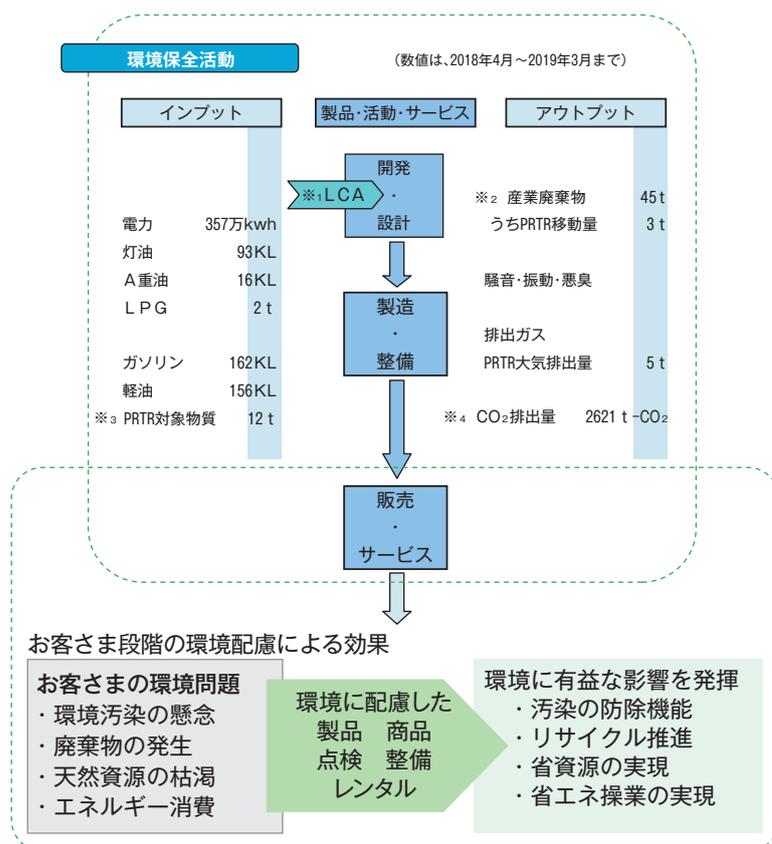
# マエダの環境経営

当社は、環境パフォーマンスを向上し、順守義務を満たして環境目標を達成するため、社是に示された『誠実・意欲・技術』の精神に則り、事業活動と環境マネジメントシステムの実践により最大の成果を得ることを図っております。経営課題およびステークホルダーの皆さまのニーズおよび期待を考慮に入れ、継続的改善を目指してまいります。

## 環境負荷の概要【マテリアルバランス】

当社の設計・製造・販売・サービスの工程の中で、環境に与える負荷の状況とお客さま段階の環境配慮による効果の概念を主な環境データと表した情報を開示いたします。

- ※1 LCA:ライフ・サイクル・アセスメント
- ※2 産業廃棄物:焼却・埋立処分されるもの
- ※3 PRTR対象物質:使用・取扱量が1トン以上の事業所の合計
- ※4 CO<sub>2</sub>排出量:電力や重油、産業廃棄物など(インプット・アウトプットの欄)に「CO<sub>2</sub>排出係数」(地球温暖化対策推進法に基づく環境省のガイドライン「温室効果ガス総排出量算定方法ガイドライン」)を乗じて算出

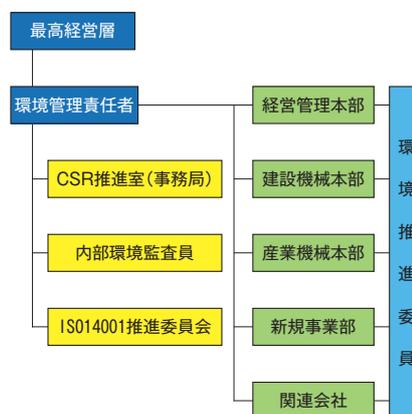


## 環境マネジメントシステム

当社の環境経営は、ISO14001推進委員会(環境管理責任者を長とし各部門の代表で組織)が、環境マネジメントシステムの構築と維持管理に関する諸施策の審議を行い、経営トップに上申し管理レベルの向上を図っております。

また、必要に応じてISO14001推進委員会の下部組織として課題別にフレキシブルにワーキンググループを設置し、問題点抽出と対策立案を行っております。

環境マネジメントシステムの活動単位となる各事業所に環境推進委員を置き、活動の推進と進捗管理に対する責任と権限を付与しております。



## 環境マネジメントシステムの振り返り

### ▶ 内部環境監査

当社の環境マネジメントシステムが、ISO14001:2015規格要求事項に適合し、適切に運用され継続的に改善が図られているか確認するために、内部環境監査を行っております。

2018年度の内部環境監査は、ISO9001:2015(以下QMS)とISO14001:2015(以下EMS)の統合の充実を図るため、本来業務の環境側面を重点に監査計画を策定し、監査を実施いたしました。内部環境監査のチームは、ベテランの正監査員と若手の副監査員でチームを編成し、建設機械本部は現場指導会と同時に、また本社工場では内部品質監査と同時に行い、監査の効率を向上させました。指摘事項は、監査終了後1ヶ月を目処にフォローアップ監査で内部環境監査員が改善の確認をしております。監査終了後は、監査結果の検討を行い、戦略的にPDCAサイクルを廻し全社へ展開しております。

#### 2018年度内部環境監査結果

不適合事項	0件(前年度2件)
要観察項目	66件(前年度103件)

■株式会社 前田製作所 産業機械本部  
ISO9001(QMS) マネジメントシステム統合プログラム登録範囲  
■株式会社 前田製作所 ISO4001(EMS)

### ▶ 外部審査

2018年度の外部審査(更新/統合審査)は、ISO9001:2015とISO14001:2015の統合プログラムで受審し、マネジメントシステムの登録を更新しました。審査登録機関より「品質マネジメントシステム/環境マネジメントシステムの統合ステージIの評価要素をすべて満たしていることが確認され、統合ステージIを維持しました。

指摘事項に対する改善は、該当受審部門において改善を完了しております。

また、審査結果を踏まえて推進委員会で対応検討を行い、全社に水平展開してシステム改善に繋げております。

#### 2018年度外部審査結果

グッドポイント	3件
改善指摘事項	0件
改善の機会	8件

## ESG情報開示の推進

### ▶ お客さまとのコミュニケーション

環境保全とその次世代への継承は、人類共通の課題であり、個人や行政とともに、企業も環境問題の解決に自主的、積極的に取組むことが必要と考えております。

事業活動が、地球規模の資源問題、温暖化問題、環境汚染問題に関わることを認識し、循環型経済社会の構築、温室効果ガスの排出削減に向けて努力することが求められております。

当社は、自社の環境活動に関する情報を公開し、ステークホルダーの皆さまとのコミュニケーションを図ってまいります。

### ▶ 投資家とのコミュニケーション

経済発展や技術開発により、人間の生活は物質的には豊かで便利なものとなった一方で、人類が豊かに生存し続けるための基盤となる地球環境は限界に達しつつあり、直面する環境・経済・社会の課題に対して、経済が成長すれば労働コストは上がり公害も発生します。このような炭素投入量の増加を伴う経済から、イノベーション等による社会・経済の質的向上を通じた高付加価値化への転換が必要と考えております。

当社は、ESG<sup>\*1)</sup>の取組み強化により企業価値の向上を目指し、株主・投資家の皆さまとのコミュニケーションを促進してまいります。

\*1) ESG(E=Environment:環境、S=Social:社会、G=Governance:ガバナンス)

## CO<sub>2</sub>排出量の削減

### ▶ 環境目的および目標

2018年度は、新たな環境目標を次のとおり設定し、実施計画を策定いたしました。(CO<sub>2</sub>排出量削減)

- 環境目的地球温暖化防止対策を推進しCO<sub>2</sub>排出量を2018年度までに2015年度比で1.2%削減し、98.8%にする  
[全社排出量を2018年度までに2,742トンCO<sub>2</sub>にする]
- 2018年度環境目標CO<sub>2</sub>排出量を2017年度比で0.57%削減する  
[全社排出量を2,742トンCO<sub>2</sub>にする(売上原単位9)]

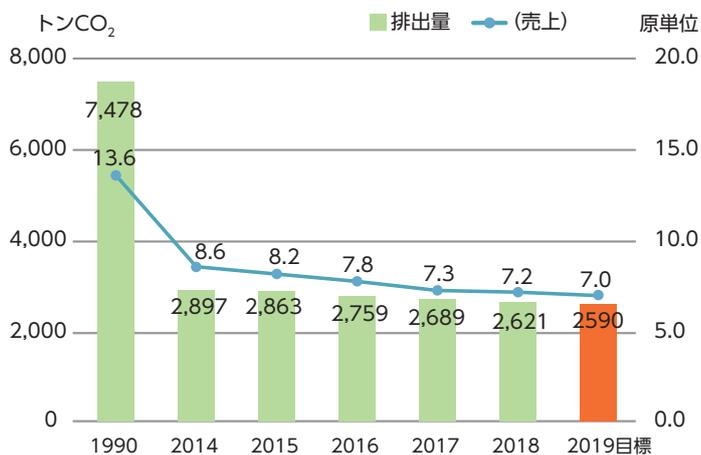
CO<sub>2</sub>排出量内訳の主な排出源

電力:工場・事務所の空調、圧縮機など動力系と照明、OA機器など電灯系

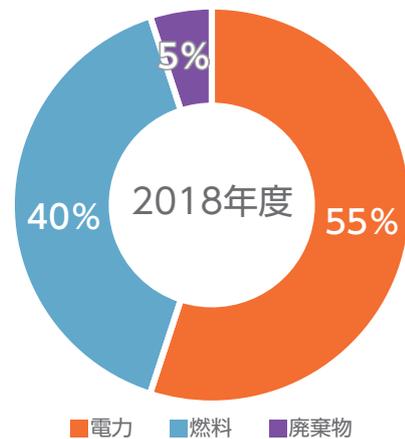
燃料:社有車・フォークリフト、ストーブなど暖房

廃棄物:処理委託先で焼却処分される産業廃棄物

### ■ CO<sub>2</sub>排出量と原単位



### ■ 排出量内訳



### ▶ 取り組み結果

各エリア・部門は、設定された目標に対して独自の方策を立案し、削減活動を推進いたしました。

#### (1) 目標達成のための方策

- ① 電 気：・使用量削減のため電力監視システムを設置（本社工場）  
・夏季のクールビズと冬季のウォームビズ<sup>\*1</sup>  
・待機電力削減用コンセント、パソコンの省エネモード設定
- ② 燃 料：・エコドライブ、  
・KOMTRAX<sup>\*2</sup>による車両移動の効率化維持
- ③ 廃棄物：・分別による可燃ごみの削減、その他産業廃棄物削減の方策実施による

#### (2) 取り組み実績と今後の課題

2018年度のCO<sub>2</sub>排出量は、2,621トンと目標をクリアし前年比で2.5%削減いたしました。

また、売上高の原単位も2017年度の7.3に対し7.2と改善されております。

※1 地球温暖化防止のため「クールビズ」は夏のエアコンの温度設定を28℃に、「ウォームビズ」は過度に暖房に頼り過ぎないビジネススタイルです。

※2 KOMTRAX(コムトラックス)とは、インターネットによる車両管理システムです。

# 産業廃棄物排出量の削減

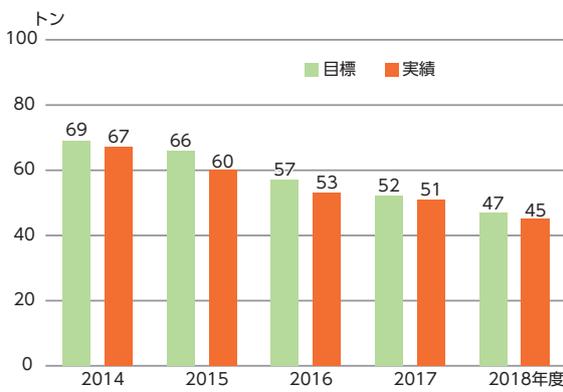
## ▶ 環境目的および目標

2018年度は、環境目標を次のとおり設定し、実施計画を策定いたしました。

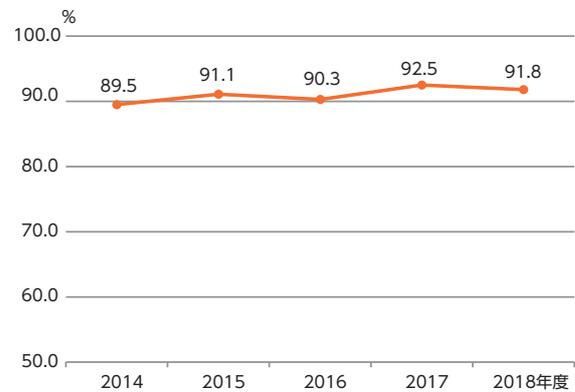
- 3Rを推進し、産業廃棄物排出量を2018年度までに2015年度比で23%削減し77%にする  
[全社排出量を2018年度までに47トンにする(売上原単位0.35)]
- 2017年度環境目標 産業廃棄物排出量を2016年度比で7.3%削減する  
[全社排出量を52トンにする(売上原単位0.35)]

※産業廃棄物とは、環境目的および目標を達成するために当社が定めた用語で、焼却・埋立処分される廃棄物をいいます。

### ■ 産業廃棄物排出量



### ■ リサイクル率



## ▶ 取組み結果

### (1) 目標達成のための方策

各エリア・部門は、事業所の実態に合った方策で3R<sup>※1</sup>を推進いたしました。

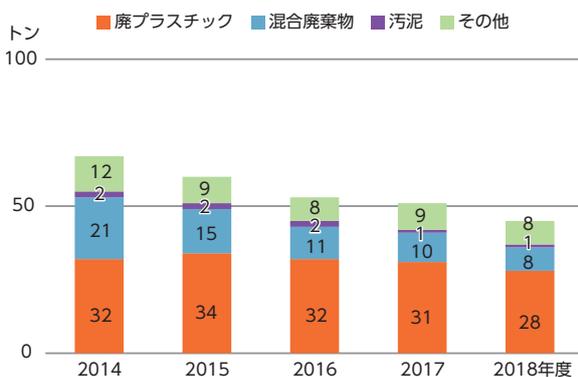
- ① 分別：・混合廃棄物を削減するため一般廃棄物と産業廃棄物を適正に分別する。  
・廃油や金属くずなど有価物を分別しリサイクルを推進する。
- ② 委託：・リサイクル業者への委託ルートを本社、支店単位で開拓する。

### (2) 取組み実績と今後の課題

2018年度の産業廃棄物の排出量は、45トンとなり削減目標をクリアし環境目的も達成いたしました。

また、リサイクル率も前年とほぼ同率でした。2019年度は、2021年度までの新たな環境目的および目標を設定し、産業廃棄物の削減とリサイクルを推進していきます。

### ■ 排出量内訳



### ■ 排出量と原単位<sup>※2</sup>



※1 3R(スリーアール)とは、環境と経済が両立した循環型社会を形成していくためのキーワードです。

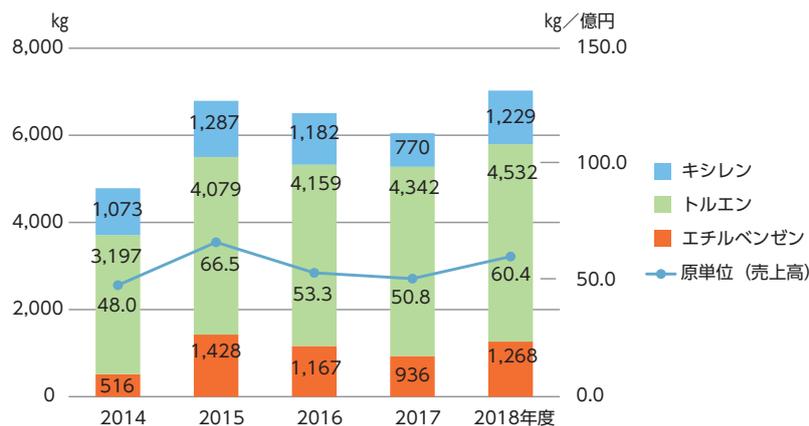
Reduce(リデュース)発生抑制、Reuse(リユース)再使用、Recycle(リサイクル)再資源化

※2 原単位は産業廃棄物(焼却・埋立処分される廃棄物)の処理費用を連結売上高で除した数値です。

## PRTR対象物質の管理

### ▶ 本社・工場

2018年度は、主力自社商品である「かにクレーン」の売上高は増加しましたが、「クローラクレーン」の売上高は、減少傾向となりました。また、鉄構機械関連製品の売上も増加しましたが、使用量の増加を吸収できず、原単位(売上高)が悪化しました。今後は、製品の化学物質による環境負荷低減に努めてまいります。



年 度	2014	2015	2016	2017	2018
第1種指定化学物質使用量 (kg)	4,786	6,794	6,508	6,049	7,029
産業機械本部売上高 (億円)	99.6	102.2	122.0	119.0	116.3

### ▶ 関連会社

ネオックスの六価クロム化合物は、シリンダーのめっき加工に使用しております。

2018年度は、売上高の増加に伴い、使用量も増加しましたが、原単位は2016年度以降改善しております。今後とも化学物質の適正な管理とめっき廃液のリサイクル化などの改善により、環境負荷低減に努めてまいります。



年 度	2014	2015	2016	2017	2018
六価クロム化合物 (kg)	2,360	2,364	2,327	2,755	4,108
ネオックス売上高 (億万円)	8.69	9.3	9.8	10.5	10.9

(特定第1種指定化学物質使用量にめっき槽の入替量は含まれていません。)

# 環境法規制の順守状況

## ▶ 環境関連法対応状況

環境に関する法律・規制、自治体の条例および業界の順守事項については、ISO14001推進委員会で内容を特定しております。また、これら順守事項を常に最新管理するため、定期的に調査・見直しを実施しております。(2017年度まで保管していたPCB廃棄物は廃棄終了の届出を実施し、当社での保管はありません。)

主な法令・条例	内 容	実施部門
○大気汚染防止法	・ばい煙発生施設の届出 ・ばい煙量等の測定	ネオックス
○水質汚濁防止法	・特定施設の届出 ・排出水の汚染状態の測定	ネオックス 本社・工場
○浄化槽法	・定期水質検査 ・定期点検及び清掃の実施	設置事業所
○騒音・振動規制法	・特定施設の届出 ・騒音の測定	設置事業所
○廃棄物の処理及び清掃に関する法律	・産業廃棄物の適正処理（保管・業者委託・特別管理産業廃棄物）	全事業所
○工場立地法	・特定工場の届出	本社・工場
○消防法 ○火災予防条例 ○PRTR法	・危険物貯蔵所の許可 ・少量危険物貯蔵所の届出 ・第1種指定化学物質の使用・取扱量の把握及び排出量・移動量の届出	設置事業所 本社・工場 ネオックス
○特定工場における公害防止組織の整備に関する法律	・統括者・管理者の届出・汚染物質の排出測定	ネオックス
○環境教育等促進法	・環境保全の意欲の増進及び環境教育	全事業所

## ▶ 緊急事態対応訓練

ネオックスは緊急事態として環境汚染のリスクがあるめっき液による土壌、水質汚染が発生した事故を想定した訓練を定期的(1回/年)に実施しております。特に、地震等の災害により、設備・施設が損傷しめっき液が流出・浸透した場合の対応手順を定め、ISO14001:2015年版への対応以前から、関係会社のリスクマネジメントへも支援を強化しております。訓練は、施設から配管の遮断措置、最終樹の状況まで確認いたしました。また、訓練終了後には有効性を確認し、改善案などがあれば対応手順を改訂し、PDCAサイクルを廻してリスクの軽減に努めてまいります。



▲ネオックス緊急事態対応訓練

## ▶ 環境教育・訓練

当社は、環境側面および環境マネジメントシステムに伴う教育訓練のニーズを明確にし、環境パフォーマンスに影響を与える業務や法順守に従事する社員・構成員に必要な力量を決め、教育訓練を実施して、維持を図っております。

### ■ 専門教育実施項目一覧

- ★認識(自覚)
  - 新入社員教育
    - ・入社時に実施（環境関連基本教育）
  - 環境推進委員教育
    - ・毎年4月実施（事務局による環境方針、活動計画等解説）
  - 一般社員教育
    - ・毎年4月実施（所属長による環境方針、活動計画解説）
- ★力量(能力)
  - 内部環境監査員リフレッシュ教育
    - ・内部環境監査員の能力維持、レベルアップ
  - 内部環境監査員養成教育
    - ・新たな内部環境監査員として認定
  - 特定業務要員教育
    - ・特定業務（レンタル機の出庫点検、めっき液廃水処理等）
  - 専門教育
    - ・危険物取扱者、環境公害（水質汚濁等）防止の測定業務

## 自社製品における環境へのアプローチ

### ▶ 製品における環境負荷低減の取組み

当社は、製品が生産、販売され、お客さまの元で使用、廃棄されるまでの製品ライフサイクルにおいて地球環境へ及ぼす影響を低減し、環境保全を促進できるよう製品の開発・設計を行っております。中でも2018年度は、自社製品に世界各地の排ガス規制に対応したエンジンを搭載するモデルチェンジに数多く取組むとともにエンジンメーカーと共同でクローラークレーン用エンジンの開発にも取組みました。



▲MC405C

### ▶ 国内・海外の排ガス規制に対応したモデルチェンジ

かにクレーンにおいては北米Final Tier4、欧州Stage Vの排ガス規制に適合したMC305C-3、MC405C-3の開発を行いました。これらのクレーンの開発に際しては、各排ガス規制に対応した適合エンジンへの載せ替えに開発を絞るとともに、デザイン性とメンテナンス性を向上させたカバーでイメージアップを図りました。

最新のオフロード法に適合したダンプトラックMDT30E4fは、主にトンネル坑内で使用される土木用機械で、当社で初めてDPF+尿素SCRシステム付エンジンの搭載に取組みました。DPF+尿素SCRシステムは排気ガス後処理装置として、エンジン制御と統合的に管理され、各種センサーにより高度に監視、運用されるシステムです。また、車両への搭載条件が詳細に定められており、その搭載評価も確実にを行う必要があります。そのため、この機種の開発においてはテストコースでの試験走行を行うとともに実際の現場でのフィールド試験も実施いたしました。

クローラークレーンにおいては、当社主力製品であるCC985S-1、CC1485S-1用の欧州Stage V対応エンジン開発をエンジンメーカーと共同でおこないました。これは当社として初めての取組みであり、その開発過程では手探りの部分もあり苦労しましたが、クローラークレーンの使われ方に適したエンジンを開発することにより環境負荷低減に努めました。



▲MDT30E4f



▲登坂試験 (MDT30E4f)



▲StageVエンジン試験ユニット



▲StageVエンジン搭載状況

### 技術者メッセージ



技術部  
渡村 達史

機械に搭載するエンジンや特装車のベース車両の排ガス規制は段階的に進んでおり、今後ますます厳しくなっていきます。

排ガス規制に対応した製品をただ設計するのではなく、環境問題の意識を持ち、規制内容を理解して設計を進めています。

そのため国内・海外の排ガス規制に関わる最新情報を常に入手し、部内で情報共有をしています。

よりスピーディーに製品を市場導入するため、資格取得による自身のスキルアップや、3D CADのデータベース充実、また、構造解析の精度向上(評価試験の効率化)を進めることで設計期間の短縮を図っています。

## 地域社会への貢献(地域社会とのコミュニケーション)

### ■ 全国都市緑化信州フェア

全国都市緑化フェアは、国民一人ひとりが緑の大切さを認識するとともに、緑を守り、愉しめる知識を深め、緑がもたらす快適で豊かな暮らしがある街づくりを進めるために、昭和58年から毎年全国各地で開催されている花と緑の祭典です。

長野県松本市で第36回全国都市緑化信州フェアが開催されるにあたり、当社も環境貢献の一環として長野県に協力してきました。その功績が認められ、実行委員長(長野県知事)より感謝状をいただきました。



### ■ 工場見学の実施

毎年近隣の小学5年生を対象に工場見学を実施し、2018年度は7校計418名を受け入れました。見学内容は、どんな機械を扱っているかを説明した後、かにクレーンの組立現場および実際にどのように動かかを体験してもらう見学コースになっております。

子供達は、説明者の話をメモを取りながら真剣に聞いてくれました。

子供達に分かりやすく、興味を持ってもらえるような工場見学の心がけております。



### 関係者メッセージ

過日は、お忙しい中見学させていただきまして、ありがとうございました。仕事の内容や製品等について、丁寧に説明していただき子供達は大変興味を持って見学することができました。写真では分からなかったクレーンの大きさや流れ作業でクレーンを組立ていく様子、そして、2回の検査はいずれも満点でないといけないこと、安全に細心の注意を払っていること等々、多くのことを学ぶことができました。

また、製品を日本国内だけではなく、53カ国に輸出されていることも知り、信州のものづくりの素晴らしさを5年生なりに感じる事ができたと思います。見学で学ばせていただいたことを、これからの学習につなげていきたいと思っています。

2018年9月21日見学 信州新町小学校5学年担当 両角先生

## 社員とのコミュニケーション(マエダ版エコポイント制度)

当社では、全社員が環境に配慮をした生活を送り続け、地球にやさしくより良い環境作りのために、身近にできるさまざまなエコアクション(省エネ・CO<sub>2</sub>削減等)に取り組んでおります。

活動を促進するにあたり、エコアクションに対してエコポイントを与える制度を設け、日頃から環境に対する意識の向上を図っております。

エコポイントは、さまざまな商品と交換することが可能です。

★環境に関する商品(マイ箸・扇子・無添加洗剤)

★有機 JAS マーク入りコーヒー豆

★震災応援商品(東北おつまみセット。九州産他)

★社会福祉法人で働く障害のある方達による手作り商品(ブリザーブドフラワー・バスボム)

★「人間ドック」と「保養施設利用」等

★社員一人ひとりが寄付先を選択することができる商品(寄付金)等

当社は、交換商品を通じて、すべてのステークホルダーとの関わりを続けてまいります。

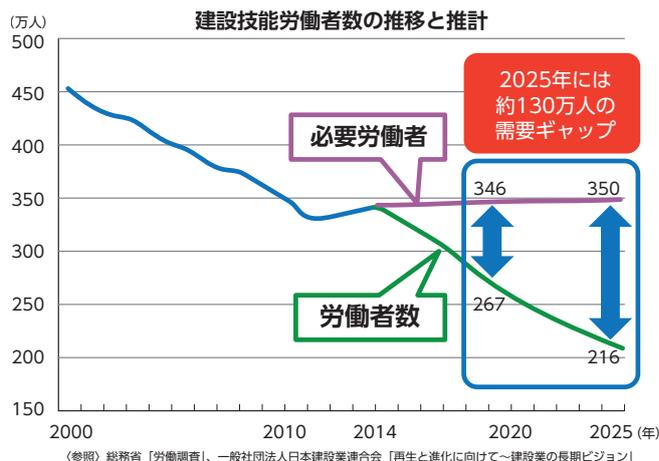
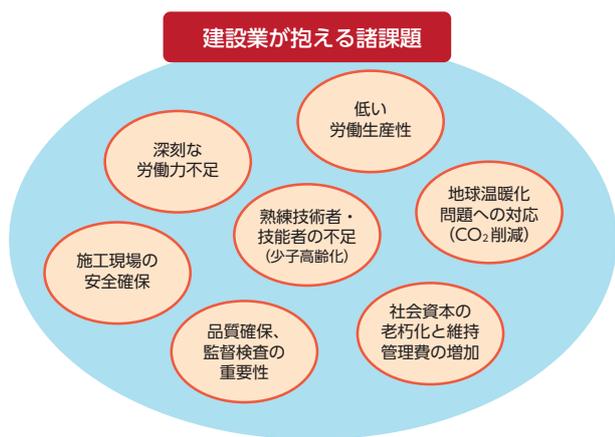


# 品質向上に向けた取組み

## 建設業が抱える諸課題の解決のために

国土交通省ではICT技術施工を、2020年度にはすべての公共工事を対象とする予定であります。

当社では、それに伴いコマツが推進するスマートコンストラクションをお客さまにご提案しております。ICT専任担当者  
を甲信地区、名古屋地区に配置し、きめ細かなサービスの提供により、お客さまの満足と信頼の獲得に日々努めております。



## ITの活用

KOMTRAXは建設機械に装着されているGPS・通信システムにより、お客さまの機械の情報を離れた場所から見守るための車両監視システムです。

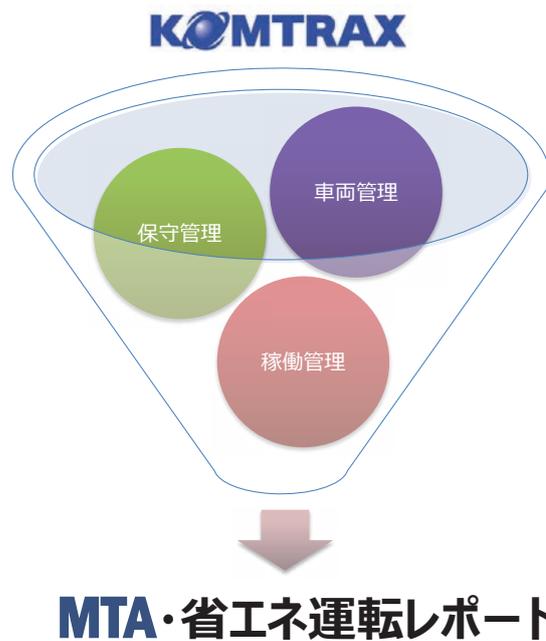
これによって、車両の保守・稼働状況・位置情報はもちろんのこと、「省エネ運転レポート」による燃料消費量やCO<sub>2</sub>の排出量も確認でき、環境負荷低減もできます。

位置情報を把握することで、より効率的に車両管理ができ、盗難防止のセキュリティ対策としてもご利用いただけます。

また、KOMTRAXからの不具合情報や現場訪問で故障箇所を発見した際、iPadで不具合箇所を撮影したデータを基にアプリ(マシンタッチアプリ)で故障診断をおこない、現場でレポートを作成し、スピーディに整備提案がおこなえます。

お客さまの感想として、「レポートによる説明で大変わかりやすく、判断材料として大変優れている」と高い評価をいただいております。

ITサービスが進む中、当社はさまざまな資源を活用し、お客さまのビジネスパートナーとして、より質の高いサービスの提供に、全力で取り組んでおります。



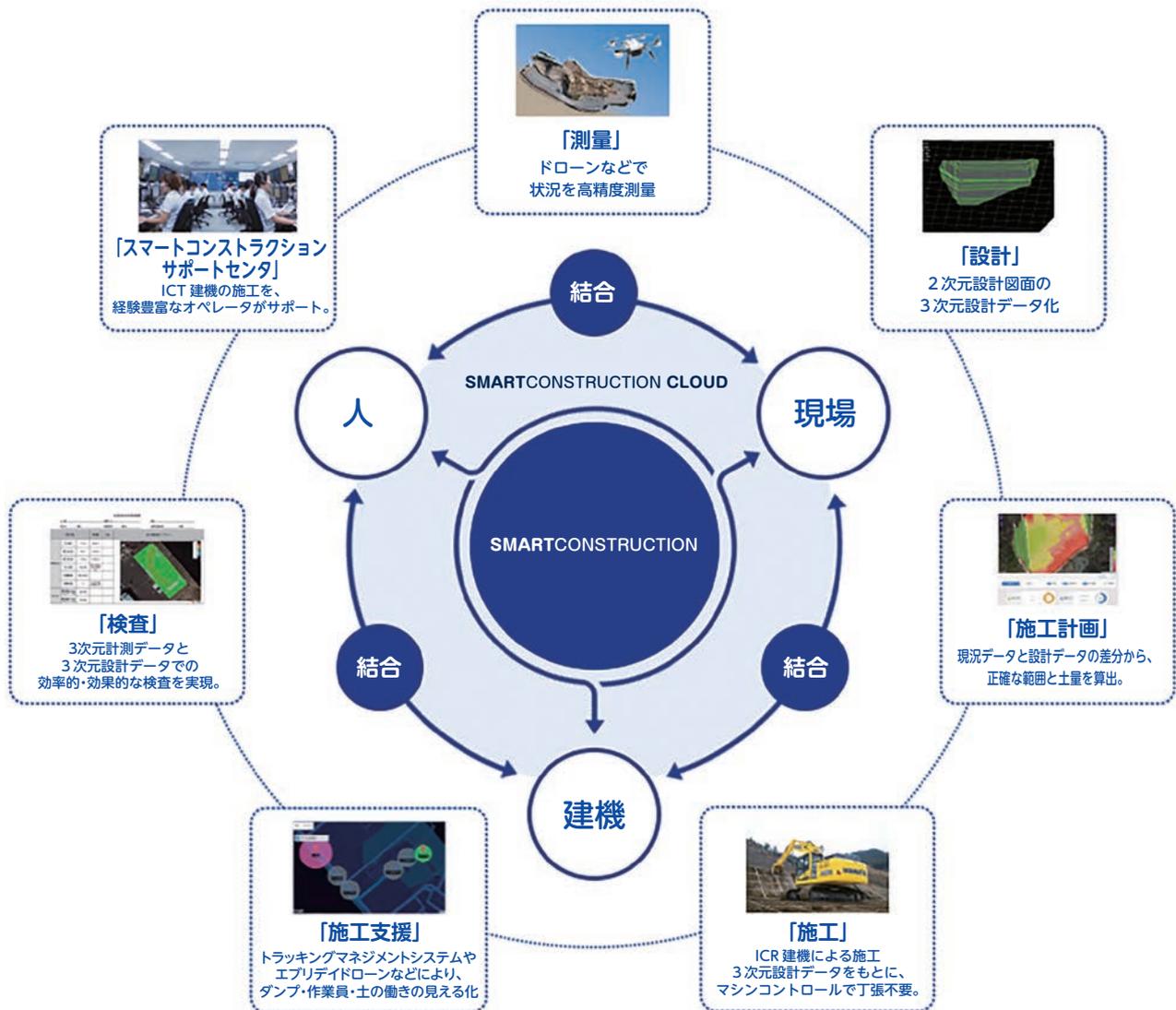
# スマートコンストラクションのメリット

ICT土工積算基準において、施工土量5万m<sup>3</sup>以下の工事では、ICT建機の使用度合いが高い傾向にあり、現行の積算基準で設定しているICT建機使用度合(25%)を超える工事が9割以上存在しております。ICT施行を普及拡大する観点も踏まえ、当面の措置として「積算基準、要領を改定し、ICT建機の稼働率を用いた施工数量による変更積算とする。」という理由から2018年2月より改定されております。これにより今後ますますスマートコンストラクションの拡大が進むと思われまます。

スマートコンストラクションで採用した3次元技術に置き換えるだけでも、起工測量日数が大幅に短縮され、土質計算等の精度が向上します。更に丁張作業が大幅削減、均一な施工が可能となり、工期短縮や作業員の減少等も図れ、人材不足において効率的な人員配分も可能となります。

女性活躍推進法が進む中、土木現場でも女性の進出、活躍が期待されております。スマートコンストラクションは、女性の方や経験の浅い方にでも安心して使いこなせていただけるメリットもあります。

## ICT技術の全面的な活用（土工）



品質向上に向けた取組み

## ブランドマネジメント活動(顧客視点)

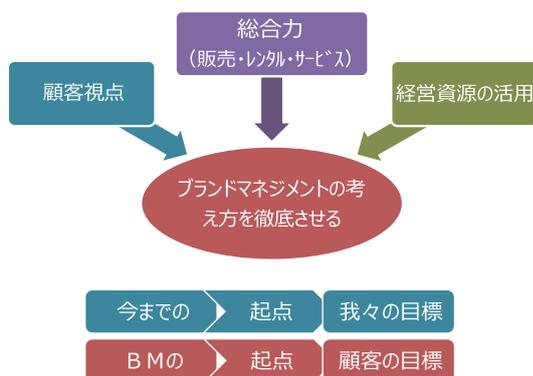
当社ではブランドマネジメント活動を積極的に推進しております。

従来は他社との差別化や、市場におけるポジショニングに重点を置いてきましたが、現在の基本的な考え方は『顧客視点』です。お客さまの現場から発生する問題点を共有し、提案活動をするにより、お互いの信頼関係を深め、更に大

きな目標に対し、共に進み続けるパートナーであることを目標としております。

お客さまから選ばれ続けられる存在になるために、当社が持つさまざまな経営資源等を活用し、ケーススタディを「見える化」することにより、それに関わる社員や組織力のレベル向上に力を注いでおります。

お客さまから選ばれ続けられる存在になるために



【ブランドマネジメントが目指しているものは……】

1. 顧客への意識改革
2. 人材育成・組織力の向上

【重要なのは……】

1. 徹底的な見える化
2. トップのリーダーシップと組織横断的な活動
3. 総合力 = 経営資源の総合化

## 技術の追求

### ▶ ATC<sup>※1</sup>大会

お客さまの機械の保守を担当するメカニックは、若手から高い技術を持つ中堅やベテランまで、幅広い年齢層に渡っております。

その中で、日々進化する建設機械を、お客さまが安心して使用していただくために、当社ではサービス員の技術力向上、技能資格取得に向け、多くのプログラムを組んでおります。

年に1回の技術・故障診断競技で、各地の予選を突破してきた、メカニックが実践形式を競う、コマツ全国ATC大会での入賞に向け、より質の高いレベルにチャレンジしております。

2018年度全国ATC大会に当社から3名のメカニックが



▲全国ATC大会

出場しました。結果、長野営業所の戸谷悟さんが整備リコマンドの部<sup>※2</sup>で優秀賞を受賞しました。

※1 ATC (ADVANCED TECHNIC CONTEST) 高度な技能・技術の競技大会

※2 整備リコマンドの部は顧客情報・稼働情報・車両点検等の情報から機械を正常に稼働させるための最適な提案をおこなう競技です。

### 技術者メッセージ



長野営業所  
戸谷 悟

ATC全国大会の出場及び入賞は、私の大きな目標でした。日々の業務をおこないながらの挑戦だったため、時間配分も大変でした。多くの方の協力もあり、着実に知識の習得ができて、優秀賞を獲得することができました。今回の貴重な経験を活かし、日頃の業務に役立てていきたいです。

## ▶ 社員研修

当社は長野県、山梨県、愛知県、三重県において、コマツの総販売代理店です。高度で均一な技術を提供するために社内研修に加え、メーカ施設で計画されているさまざまな研修プログラムに参加し、先端マシン技術や最新情報知識を高めております。

また、新入社員研修においては、社会人の基本的なビジネスマナーや基本的行動などの社会人スキルの取得を目指し、集合教育などを定期的で開催しております。また、トレーナー制度を設け先輩社員がマンツーマンで1年間教育、指導をおこなってまいります。



▲新入社員研修会

## ▶ 現場指導会

建設機械本部では現場指導会を年2回実施しております。

過去に労働災害が多発したため、労働災害を予防するための方策として、本部員による現場パトロール及び個人面談をおこなってきました。

確実に社員一人ひとりの安全意識が高まり、2017年度には労働災害ゼロを実現しました。

このような活動を通して、社員が安心して安全に働ける環境整備をおこなうことが、お客さまに質の高いサービスを提供できることに繋がってきております。



▲現場指導会個人面談

## お客さまとのかわり

### ▶ 展示会

当社では、お客さまに最先端の建設機械や環境・ICT技術などに触れて体感していただき、より多くの皆さまに当社の取り組みをご理解いただけるような、イベントを定期的で開催しております。

2018年度は山梨営業所で展示会を開催し、多くのお客さまにご来場していただきました。

展示会を通じ、お客さまとより一層のコミュニケーションを深め、ビジネスパートナーとして、プランにマッチする商品のご提案に努めております。



▲展示会風景

### ▶ お客さまの人財育成に協力

お客さまへの貢献活動の一環として、お客さまの従業員教育を開催しております。

教育内容として、建設機械の性能、構造の概要、一般知識、安全作業のための実機演習などもおこなっております。

安全教育では、災害事例の紹介・対策など、安全作業における基本動作の指導（整理整頓の方法、正しい服装及び安全保護具の使用方法など）の教育をおこなっております。



▲お客さまへ実技指導

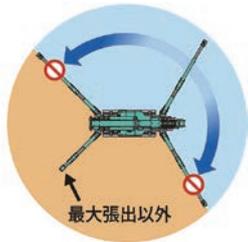


## ▶ 作業する人の安全・安心に配慮した設計開発

当社ではお客さまにより安全に安心して当社製品をお使いいただけるよう新しい安全装置の開発にも日々取り組んでおります。2018年度は、かにクレーンの中型機種MC285C-3にアウトリガーマルチアングル機能付の安全装置を搭載しました。これまでの安全装置付のかにクレーンではアウトリガの張出角度が限定されていましたが、MC285C-3ではアウトリガの張出角度を変更することができ、且つ、作業禁止範囲の手前ではクレーンが自動停止します。この機能によりMC285C-3は、お客さまにより使いやすく安全にクレーンを使用していただくことが可能になりました。



▲MC285C-3



▲アウトリガーマルチアングル機能付安全装置  
最大張出以外

## ▶ 品質と技術の追求

当社では、製品の開発に際してお客さまのニーズにあった新機能の開発に取り組むとともに、製品の品質向上にも努めております。例えば下記の“品質体系図”のように製品開発の企画から市場投入までの各ステップごとにデザインレビューを行いお客さまの要求仕様の製品への織り込み状況、また機械としての品質が十分に確保されているかの審査をしております。とくに試作機での確認段階においては各機能の機能試験を行うとともに製品の使われ方を考慮した耐久試験を実施し品質確認を行っております。



▲DR (デザインレビュー)

## ▶ お客さまの声を反映した改善

私達がお客さまの声を取り入れるシステムは、主に3ヵ月点検時にお客さまよりいただく「お客さまアンケート調査」、全ての社員が自らの情報を社内に公開できる「MM情報」、クレームに対して迅速に社内展開できる「品質緊急レポート」があります。これらの情報に対して営業部門の部長、各拠点の所長による「営業統括部会議」や営業に加えて品質保証、製造、設計と本部全体での「顧客満足度向上委員会」を継続的に開催し、常時社内でのコミュニケーションを密に保ち、お客さまのニーズに応えられるように製品、サービスの改善を図っております。

## ▶ お客さまとのかかわり

定期的に行っている海外販売店とのミーティングはもちろんのこと、2018年はマエダクレーン誕生50周年という節目の年でもあったため、初めての試みであるサプライヤーミーティングやディーラーカンファレンスを開催し情報交換を行いました。

他には国内外での展示会(前年実績:国内30回・海外10カ国10回)におけるヒアリングや、国内主要ディーラー10社、海外現地ディーラー10社とユーザーさまへの訪問によるヒアリング等で直接ユーザーさま・ディーラー双方から生の声を聞いております。



▲国内ディーラーミーティング

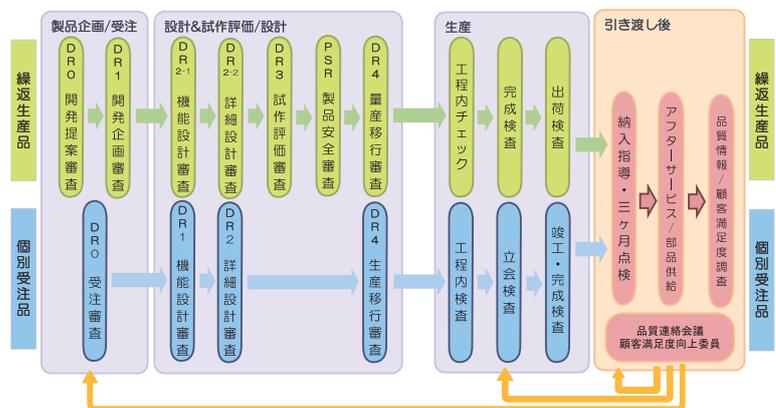


▲海外ディーラーカンファレンス



▲サプライヤーミーティング

## ▶ 産業機械本部 品質体系図【概略図】



## 品質改善の取組み

### ▶ クレーム発生を抑止

場内計4ヵ所に設置した「品質保証部掲示板」による不具合情報の見える化を、2016年度から継続しております。月1回の更新により、クレーム情報を共有することによりクレーム発生の抑止を図っております。

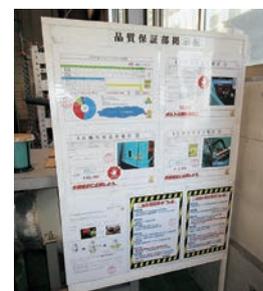
本活動により、工程で発生したヒューマンエラーに起因するクレームの件数は2015年度から減少し続けており、2018年度は2015年度の発生件数から比較して約74%減少することができました。

引続き、ヒューマンエラーによるクレーム発生件数0件を目指して、活動をおこなっていきます。

また、品質保証部主催でヒューマンエラー撲滅のための社内講習会を実施しました。ヒューマンエラーについてより理解を深めてもらい、製品に関わるすべての人が同じ方向を向いて、ヒューマンエラーを無くしていかなければならないと考えております。

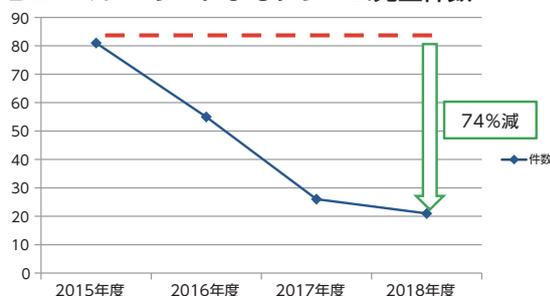


▲品質保証部掲示板 (東工場)



(西工場)

### ■ ヒューマンエラーによるクレーム発生件数



### ▶ コンタミに起因する不具合の撲滅

産業機械本部の売上の主軸であるクレーンは、油圧回路を作動油が駆け巡ることにより駆動しております。作動油は人間でいう血液と同じ役割と云っていいほど重要な部分です。その作動油に不純物が混入することをコンタミと呼んでおり、コンタミが発生すると回路が正常に作動しなくなったり、ポンプ、モータ、シリンダなどの油圧製品の故障につながったり、不具合として現れます。この不純物を除去するために作動油をろ過する工程をフラッシング工程といいます。

現在は、社内で製造しているほぼすべての機種に対してフラッシングを実施しており、油圧機器に関する初期トラブルを減少させてお客さまの信頼確保に努めております。

また月に1回、全機種で作動油のサンプリング調査を行い、作動油がきれいに保たれているか、品質が安定しているかを確認しております。



▲作動油フラッシング装置 (PC用)



(CC用)

### ▶ 検査工程

製品の組立完了後、性能品質検査を1台ごとに実施しております。検査項目は140項目あり、すべての検査に合格した機械だけが出荷されます。

「不良を外に出さない」を合言葉に、日々活動しております。



▲コンタミサンプリング装置 (パーティクルカウンター)

# ものづくりにおける人財育成への取組み

## ▶ 安心していただける品質ものづくり

「品質至上」を基本理念に、ものづくり企業として社内教育と各種資格取得に力を入れております。

ベテランから若手まで技能検定試験を中心に数多くの資格取得に向け挑戦し、スキルアップを図りました。

2018年度は、資格取得件数38件、「長野県溶接技術コ

ンクール 炭酸ガスアーク溶接の部優秀賞」の獲得など、当社のものづくり力は確実に前進しております。

また、品質管理に不可欠な「6S活動(整理・整頓・清掃・清潔・しつけ・習慣)」の重要性を朝礼などで教育し、品質改善の徹底に努めております。

### 受講者メッセージ



製造統括部 第3生産G  
片桐 瑠風

「ものづくり研修室」主催の定期講習会を積極的に受講し、技術力向上に努めております。前田製作所のコア技術である「溶接」の技術力を高めるため、今後は「半自動溶接」の講習会を受講します。そして、長野県溶接コンクールに参加し、上位入賞を目指したいと考えております。

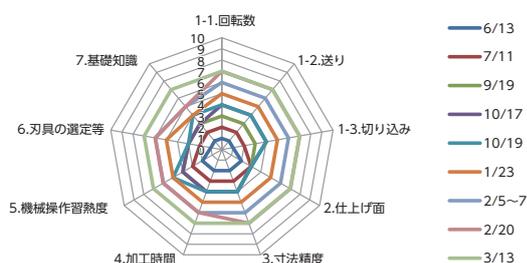
「誠実・意欲・技術」の社是のもと、お客さま第一で品質の更なる向上を目指し、日々の業務に取組んでおります。

## ▶ 「ものづくり研修室」 「溶接機械加工道場」 の活用

当社のコア技術である「溶接」「機械加工」「油圧」「電気」など、ものづくりのベースとなる技術を伝承する目的のため、2015年度より継続して「ものづくり研修室」、「溶接・機械加工道場」の活動を行っております。

受講者の方も、更なる技術力向上のために積極的に活動しております。

### ■ 個人別評価グラフ (施盤加工定期実習)



## ▶ コア技術伝承の定期講習

若手社員だけでなく既受講生の更なるコア技術の向上のためにこれまでの定期実習(半自動溶接、アーク溶接、旋盤加工、フライス加工、芯出し(コンペア))に加え、構造物溶接の定期実習を開設し、女性も含め社員が受講しました。

〔2018年構造物溶接の定期実習受講者:11名〕



### 受講者メッセージ



品質保証部  
村松 良恵

2018年度、「旋盤加工」と「構造物溶接」の定期実習を受講しました。モノ作りの難しさや製作過程の選択枝の多さ、正確に作るための工夫など、完成品を見るだけでは知ることができないことが多かったです。品質保証部ではクレームの際にさまざまな技術や知識が必要になるので、少しずつでも技術習得できればと思っています。今後も継続受講の機会を見出し、積極的に取組みたいと思います。

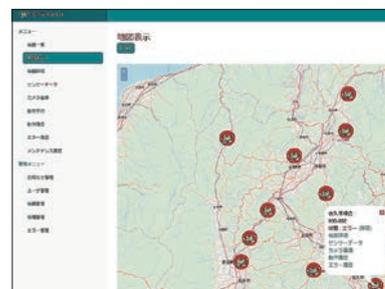
品質向上に向けた取組み

## 新しい価値の創出

### ▶ IoT技術による新製品の創出

私たちはIoT技術を活用した、「まきえもん<sup>※</sup>用IoTユニット(DSFi)」の開発を行い2018年度よりサービスを開始しました。これによりインターネット環境があればどこからでもまきえもんの状態確認ができるようになりました。今後はこのIoT技術をいかして既存製品付加価値の向上を図るため、「Linux・無線・画像処理」等のICT技術習得を進め、新たな製品の創出と品質向上を目指します。

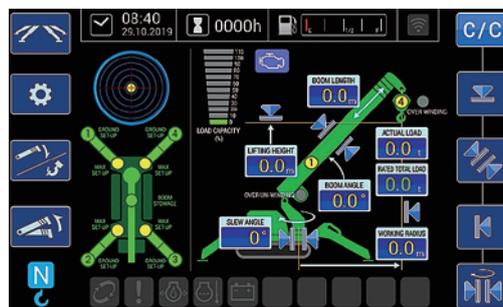
※まきえもん 定置式凍結防止剤散布装置



▲まきえもん用IoT地図表示画面

### ▶ モーメントリミッタ(過負荷防止装置)の安全性向上

私たちが2014年度より内製化を始めたモーメントリミッタ(過負荷防止装置)は、クレーンの転倒を防止し安全なクレーン作業を行うための重要な装置です。2018年度は新機種MC285C-3へモーメントリミッタの搭載を行うとともに、既存機種を各国の規格に合わせた対応や、より安全性を向上させるための巡回規制機能等に取り組んできました。今後はモーメントリミッタ制御技術に合わせて、見える化・自動化技術との融合により更なる品質・安全性の向上に向けて取り組んでいきます。



▲MC285-Cモーメントリミッタ表示画面

## 合金微粉末の製造事業

### ▶ 合金微粉末の製造

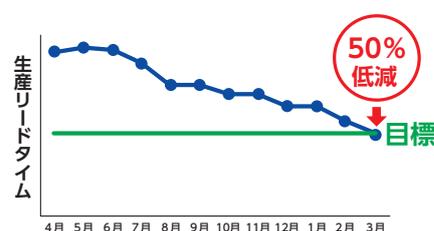
近年、IoT・5Gなどによる高度情報化社会が急速に発展してきており、電気製品の高機能化が進んでいます。そのため、この発展を担う次世代パワー半導体をはじめとする高機能な電子機器等の普及が現在望まれてきています。微粉末グループでは、それらの電子機器等に対応し活用していただける高温対応・高信頼性の接合材向け合金微粉末を、社会ニーズ実現のお役にたてるよう、日々品質向上に取り組みながら製造しています。



▲電子顕微鏡による品質確認

### ▶ 生産効率の向上と信頼性の向上

2018年度は、お客さまに安定した品質で合金微粉末を提供し続け、より多くの用途への活用につながるよう、生産の効率化と信頼性の向上に力を入れて活動してまいりました。具体的には作業方法の見直し・改善や生産設備の自動化・省力化を進め、生産リードタイムの低減により生産効率の向上を図りました。また、設備・機器について信頼性解析ツールであるFTA・FMEAを活用し、故障予測から点検の展開・強化を進め、安定して生産を継続できるよう信頼性の向上を図りました。



▲生産リードタイムの低減推移

# コーポレートガバナンス

公正で効率的な企業活動を通じ、株主の皆さま、お客さま、お取引先さま、地域社会、社員等あらゆるステークホルダーから信頼を得るためには、コーポレートガバナンスの強化が重要課題と認識し、さまざまな対策に積極的に取り組んでおります。

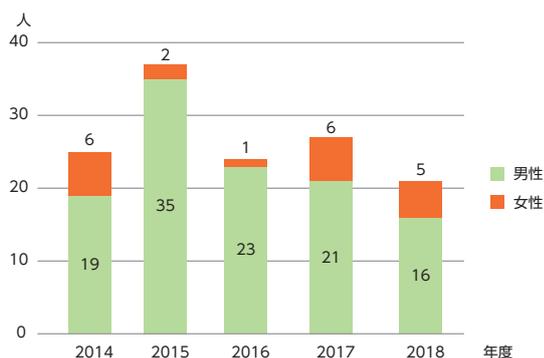
## 人財の確保と人財育成の取組み

### ▶ 人財確保の取組み

労働人口減少傾向が今後益々深刻化していくにあたり、人財確保と育成の強化は企業にとって最も重要な課題となっております。当社では、新入社員、中途採用者、障がい者、退職後も活躍する継続雇用者が、最大限に利用しやすい制度や環境を都度見直しながら調整を図り、人財確保ができるよう積極的に努めております。

2017年10月に育児・介護休業法が改定されたことにより、当社も2018年4月に育児休業・看護休暇規程を改訂し、社員が円滑に仕事と両立できるよう配慮し働き続けられるための支援をおこなっております。

#### 採用（新卒・中途）人数と男女の割合



### ▶ 継続雇用と障がい者雇用の取組み

2006年度より60歳の退職日から毎年更新契約（最長5年）とした「継続雇用制度」を設けております。退職する約9割の社員がこの制度を利用しております。当社で培ったノウハウを先輩社員から受継ぎ、マエダの技術と伝統を守っていきます。また最長5年が経過した時点で、体調が良く、本人の希望があればパート社員へ移行することも可能であり、会社も社員にとっても良い関係が保たれております。

2018年度の障がい者雇用率は、2.36%で法定雇用率の2.2%を超えております。これからも積極的に障がい者雇用を推進してまいります。

#### 退職者と継続雇用者の人数

(単位:人・%)

年度	2014	2015	2016	2017	2018
定年退職者	18	14	8	18	11
継続雇用者	18	13	8	17	7
障害者法定雇用率	1.68	1.63	1.86	2.32	2.36

### ▶ マエダの人財育成の取組み

人財育成においては、新任管理監督者への教育を行っております。あわせて、通信教育の指定講座を受講させております。これは、新たに管理監督者へ昇級した社員が、自己の役割を明確にすることと意識改革を目的としております。そして会社の生産性向上へつなげる効果的な人財育成に努めております。



▲新任管理監督者教育実施

### ▶ 社員の教育訓練に関する取組み

職務上必要とする資格は多数あります。その中で安全衛生法に規定されている技能講習および特別教育がありますが、技能講習については外部教習機関において受講し、事業者の責務である特別教育および職長教育については法令に定められた事項と時間を厳守して社内で教育しております。

2018年度はフルハーネス型安全帯使用作業特別教育が必要となりましたので2019年1月より特別教育を実施しております。



▶クレーンでの吊上げは長野労基署に確認をとり、実施しております



## マエダの労働安全衛生

### ▶ マエダ安全衛生方針

制定：2014年4月1日

〔基本理念〕

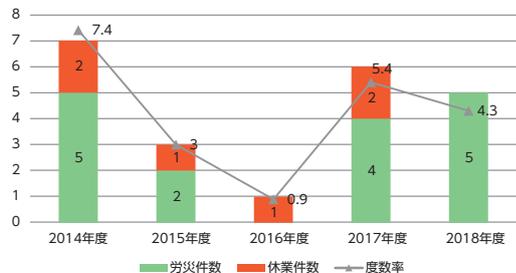
### 「安全は、会社の良心である」

「安全は、会社の良心である」を安全行動の基本理念とする。生命・健康を守るという「人間尊重」の精神は、一人ひとりの努力によって積み重ねるものであり、与えられるものではない。安全と健康を最優先とする企業文化を構築するために、安全衛生活動を、全社一丸となって遂行する。

### ▶ 労働災害

当社の安全目標は、労働災害0件・交通事故0件のゼロ災となっております。

労働災害件数は全災害(医療費請求を行った災害)カウントであり、交通事故は過失割合が当社側に20%以上あるものをカウントしております。



2018年度は、災害件数5件、全災害度数率4.3、休業災害度数率0となっており、当社の災害の傾向としては依然として「赤チン」災害が多いということになっております。

5件の災害の中身を見てみると、熱中症災害が2件、挟まれ災害2件、飛来1件となっております。

当社は特に、お客さま現場で稼働機械の待たなしの修理がありますので、お客さまの道具としての機械を一刻も早く直すべく無理をしてお客さまの熱中症被災が問題と考え、からだ自体を冷やすクールベストや空調服の導入をおこないました。

### ▶ 交通事故

2018年度の事故は5件全てが物損事故でした。事故の原因としては、思い込み事故2件・信号無視・車間距離不足・錯覚が各1件ずつ発生しております。

事故予防としては、新入社員対象にK2適性検査、その他社員には運送業で実施している「CRT運転適性検査」を実施し、結果を基にして安全指導を実施しております。また、過失割合100%の事故を起こした社員に対しては、教習所にて運転再教育メニューを受講させております。



### ▶ ストレスおよび過重労働対策

ストレス対策として、毎年実施している「ストレスチェック」が2018年よりWeb環境があれば「いつでも・どこでも・わかりやすく・簡単・効果的に」できるようになり、一斉実施以外でもセルフチェックとして利用しております。

過重労働対策としては、ノー残業デーやフレックスタイム導入および残業時間が単月80時間超の社員への産業医面談の義務づけと、3ヵ月累計残業時間165時間超(当社ルール)の社員の所属部署に時間外労働削減依頼をし、労働時間の是正を行っております。2019年は働き方改革法

が施工され更に社員の健康のため、更なる管理に努めてまいります。



▲ストレスチェック実施風景

# ダイバーシティの取組み

## ▶ マエダ働き方改革宣言

当社では、「マエダ働き方改革宣言」発令以降、社員の働き方を見直す取組みをおこなっております。

主な取組みの1つ目は「フレックスタイム制」の導入です。社員の業務意欲向上と効率化を目的としており、業務に応じて出勤時間を自主的に計画・管理をおこなうことで、働きやすい職場環境が整備されました。

2つ目は「みなし手当」(営業・サービス営業職)の廃止です。労働時間に対しての適正な手当を支給することにいたしました。

3つ目は建設機械本部で導入してありました「変形労働制」の廃止です。これにより全社員が完全週休2日制となるようにいたしました。

勤怠システム導入から1年が過ぎ、社員の適正な労働時間を把握することで、今後もワークライフバランスの充実や過重労働の防止を図ってまいります。

## ▶ 女性活躍推進の取組み

女性活躍推進では、社内向けガイドブック「challenge! Vol.2・3」を発行いたしました。Vol.2では「MAEDA働き方改革宣言」発令後1年が経ち、女性活躍に対する意識変化についてのアンケートの結果を掲載いたしました。結果は、社内全体の4人に1人は「変わった」と感じていることが分かりました。また、各本部長が考える「女性活躍」を受けて、当社が取組むべき「女性活躍」や「現状の問題点」についての課題が顕在化しました。

Vol.3では、Vol.2で顕在化した課題をもとに、各本部で「意識調査」「講習会参加」「働きやすい職場環境づくり」の取組みをおこないました。

また、社内制度(育児・介護)について、実際に制度を利用した社員から意見や要望を聞き、これから利用する社員に向けてのメッセージを掲載いたしました。

今後は女性活躍にとらわれることなく、ダイバーシティマネジメントとして一人ひとりの才能をいかすことができる魅力ある会社づくりを目指してまいります。



▲マエダオリジナル冊子「Challenge!」Vol.2・3

▶甲信地区交流会  
(建設機械本部)



◀女性社員意見交換会  
(経営管理本部)



▲技術系女子採用冊子 (産業機械本部・新規事業部)



## 育児休暇を取得して

諏訪営業所 宮沢 正彦

今回、妻の出産にあたり、2ヵ月間の育児休暇を取得しました。

妻の体調不良等もあり、サポートが必要であったこともわかっていたため、会社に相談したところ、快く育児休暇取得を承諾していただきました。

オムツを替えたり、お風呂に入れたりはもちろんですが、授乳などで忙しい妻の生活が少しでも楽になるようにサポートをしました。子供も日々成長し、あっという間に大きくなっていきます。私の会社復帰後は両親が手伝ってくれております。

苦労もありましたが、家族全員で新しいスタートができたこと、子供の成長が間近で見られたことなど、育児に対する大変貴重な体験ができました。

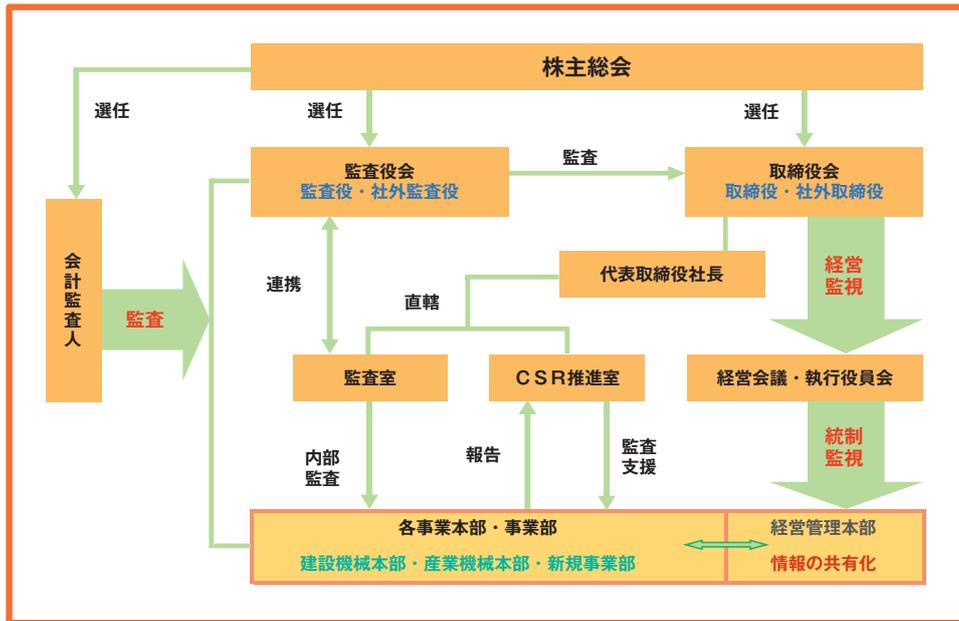
理解していただいた営業所の皆さん、応援してくれた方々に感謝しております。



## コーポレートガバナンス体制

企業不祥事は企業の存続自体危うくしかねないため、当社はコンプライアンスの重要性を認識し、事業活動に関する説明責任や、経営の効率化、健全性、公平性並びに透明性を含めて経営体制の整備を進めております。

また、株主の皆さまやお客さまをはじめ、あらゆるステークホルダーとの良好な関係を築き、適宜適切に情報開示をしていきます。そのためには、株主総会、取締役会、監査役会、執行役員会など、機関機能を一層強化・改善・整備しながら、コーポレートガバナンスを充実させていくことが必要と考えております。



## リスク管理体制

当社は、大規模地震の発生を優先対応リスクのひとつとして位置づけ、大規模地震に対する事業継続計画 (BCP) の整備・見直しを継続しております。

当社は、大規模地震発生を想定した「BCP訓練」を年2回実施しております。2018年度は、伊豆諸島沖で巨大地震が発生し、太平洋側に所在する当社の事業所・関係会社の事業所に多数の被害が発生すると想定した訓練を実施しました。当社グループに導入した安否確認システムの運用訓練、各事業所において迅速な避難・安全確保を鍛える訓練など、実践的な内容で訓練に取り組んでおります。

## ステークホルダーとのコミュニケーション

当社は、決算発表に合わせて、年2回決算説明会を開催しております。

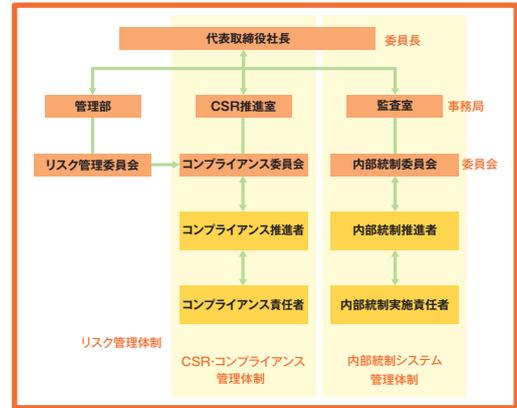
決算説明会では、近郊にお住まいの株主の皆さま、近隣の会社の皆さま、当社に資材・部品などを納入していただいている協力業者の皆さま、普段お取引いただいている金融機関さまなど幅広いステークホルダーの皆さまにお集まりいただいて、当社の現況、今後目指していく姿をご理解いただいております。



## CSR・コンプライアンス

CSR・コンプライアンスについての最高機関として、コンプライアンス委員会を設置しております。委員会では、CSR・コンプライアンスについての課題や今後の方向性について討議並びに統制を図っております。また、コンプライアンスについては、年2回コンプライアンスチェックシートによる自主点検を全事業所で実施しております。合わせて、抜き打ちでコンプライアンス監査を行い、違反の未然防止や知識および意識の向上を図っております。

個人情報の管理については、「個人情報保護法」に定められた個人情報に関して「個人情報管理の基本方針」(プライバシーポリシー)を、特定個人情報(マイナンバー)の管理については「番号法」に基づき、「特定個人情報の適正な取扱いに関する方針」を制定し、厳格に保護・管理を行っております。



### ▶ 企業行動ヘルプラインホットライン

公益通報者保護法に基づき当社は、企業の不祥事をいち早く発見し、通報した社員に不利益な取扱いから保護するための内部通報システムを設けております。通報窓口として、社員窓口(男2名/女2名)と社外窓口(顧問弁護士)があります。

また、社外のステークホルダーからの通報やご意見を受ける場としてホームページ上に窓口を設け、コンプライアンスの徹底を図っております。

### ▶ 国際ルールの遵守

当社は、海外事業において人権を尊重するとともに、労働および環境などの国際ルールや現地の法律を遵守するだけでなく、各国の宗教・文化・習慣を遵守し、その発展に貢献いたします。

商品輸出に際しては、各国のクレーン規格適合や国別の車両型式の承認取得等それぞれのニーズに順応しております。

## 内部統制

### ▶ 内部統制システム

当社は、健全な事業活動を確保し、ステークホルダーの皆さまに対する社会的責任を果たすことを目的とし、経営環境からもたらされる経営リスクを事前に抑止するため金融商品取引法で求められている内部統制報告制度に対応した「内部統制基本方針」を定め、内部統制システムの整備・運用体制を構築し、管理運営しております。

### ▶ 反社会的勢力に対する取組み

当社はマエダ企業行動憲章において「社会の秩序と安全の重視」とし、社会の秩序と安全に脅威を与える反社会的勢力および団体に対しては毅然とした態度で臨み、断固として対決することを宣言しております。

研修や教育等を通じてこれらの勢力や団体とは関係を一切もたないことを全社員に周知し、徹底を図っております。



▲マエダ企業行動憲章

### ▶ 公正な競争

当社は、公正な競争の元で経済活動を継続していくために、以下の3項目を遵守いたします。

1. 独占禁止法の遵守について、社内での徹底を図ってまいります。
2. 公正・適正な購買取引を実施するように努めております。
3. 政治・行政との適正な関係を保ちます。

### ▶ 内部統制管理体制

内部統制に関する専門部署として社長直轄組織の監査室を設置し、「内部統制委員会」を運営しております。監査室は、内部統制システムに基づき全事業所を対象に、監査指導を随時実施し、違反や問題のあった事項については、対象事業所への改善指導や委員会への報告とイントラネット上の全社掲示板に事例を掲示することで再発防止を図っております。

# 有識者意見/有識者意見を受けて

## 有識者意見



コマツ  
常務執行役員  
建機マーケティング本部  
国内販売本部 本部長  
**上野 進氏**

コマツの建設機械の中核販売として、日頃の活動に感謝申し上げます。  
今年度の御社のCSRの取組みに対して、CSR 2019の記載内容をもとに、第三者としての意見を申し上げます。

報告書の冒頭では、コーポレートメッセージ並びにトップメッセージで、「成長の実現」に向けての強い決意・方針が打ち出されています。その決意・方針に則り、御社のCSR重点活動を、環境・品質・コーポレートガバナンスの各分野ごとに明記したうえで、特集1において事業とCSR重点活動の両立について、前中期3か年経営計画の成果を総括しながら新中期経営計画を示す、という一連の流れのあるわかりやすい報告書となっています。

特集2では、「マエダクレーン誕生50年の歩み」を中心とした現在に至る歴史をハイライトし、国内外のお客様の声も掲載、お客様を尊重する姿勢を感じ取ることができます。

また、全体を通じて、ESG課題の中で先ず環境を取り上げ、投資家・ステークホルダーの視点・ニーズを意識した情報開示の推進、および品質向上に向けた取組みとして、ブランドマネジメント活動の推進などが丁寧に説明されていると感じます。

コーポレートガバナンスにつきましても、人財育成・労働安全衛生・ダイバーシティ・コンプライアンスなど、見やすくわかりやすい構成となっています。

更には、全体を通じ従業員の声が多く掲載されているのが印象的であり、従業員を大事にする、育み感のある御社の社風を強く感じられます。

このようなインナーブランディングにより、社員育成のブランドストーリーを構築するなど、さらなる社員意識改革について、今後の成果に期待いたします。

最後に数点だけ、アドバイスをさせていただきます。

長期的かつ持続的な成長を実現するうえで、企業理念に共感する社員の育成がキーポイントです。理念を浸透させることで、変化を恐れない社員や、挑戦する社員が増え、活性化した強い会社になると思います。

コーポレートメッセージに「会社の成長は社員一人ひとりの成長から」とあります。このベースとなる考え方を基に、2019年度から始まる新中期3か年経営計画にかかげられたCSR重要テーマと重点活動に対する御社の姿勢や取組みを、ステークホルダーに対して積極的に発信していただきたいと思います。

来年は、御社との総販売代理店契約を締結してから30年を迎えます。

今後もWin-Winの関係を築きつつ、良きパートナーとして、「成長の実現」目指しましょう。

## 有識者意見を受けて

上野様からの貴重なご感想、またご意見に、心より感謝申し上げます。

CSR報告書は、会社の目指す大きな方向性を分かり易くステークホルダーの皆さまにご提示できる重要なツールであると理解しております。

今回、これまで取り組んできたクレーン開発の歴史から、今後の会社の指標や計画まで、幅広くご理解いただきたく誌面を構成させて頂きました。

上野様にはお客様を尊重する姿勢、環境への取組み等の評価を頂いた一方、企業理念に対する社員の理解、CSR重要テーマと重点活動に対する取組みの積極的な開示などのご提言を頂きました。

これらを受け、今後ともより充実したCSR・コンプライアンス活動と、それらを盛り込んだCSR報告書の作成に努めると共に、ステークホルダーの皆さまの信頼を一層深めるべく活動してゆきたいと考えております。

取締役専務執行役員  
経営管理本部長  
**加藤 保雄**



 株式会社前田製作所

CSR推進室

〒388-8522

長野県長野市篠ノ井御幣川 1095

TEL 026-292-2229

HP <http://www.maesei.co.jp>

